

# BOM for Windows Ver.5.0

## ファーストステップガイド



セイ・テクノロジーズ 株式会社



## 免責事項

本書に記載された情報は、予告無しに変更される場合があります。セイ・テクノロジーズ株式会社は、本書に関していかなる種類の保証（商用性および特定の目的への適合性の黙示の保証を含みますが、これに限定されません）もいたしません。

セイ・テクノロジーズ株式会社は、本書に含まれた誤謬に関しての責任や、本書の提供、履行および使用に関して偶発的または間接的に起こる損害に対して責任を負わないものとしす。

## 著作権

本書のいかなる部分も、セイ・テクノロジーズ株式会社からの文書による事前の許可なしには、形態または手段を問わず決して複製・配布してはなりません。

Copyright 2007 SAY Technologies, Inc. All rights reserved.

本ユーザーズマニュアルに記載されている Microsoft Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国及びその他の国における登録商標です。その他会社名、製品名およびサービス名は各社の商標または登録商標です。

## 本書の目的および使い方

本書『BOM for Windows Ver.5.0 ファーストステップガイド』は、Windows コンピュータに BOM をインストールし、BOM による Windows システム監視を体験していただくためのマニュアルです。内容としては、BOM の概要説明とインストール手順、および簡単な監視テンプレートの適用方法となっています。さらに詳しい BOM のすべての機能についての説明や使用方法、エラーメッセージなどについては『BOM for Windows Ver.5.0 ユーザーズマニュアル』をご参照ください。

BOM の各コンポーネント(BOM 本体、集中監視コンソール、アーカイブサーバー、アーカイブマネージャ)のインストール方法については、「3 . BOM for Windows Ver.5.0 のインストール」をご参照下さい。

Windows 2000、Windows Server 2003、マイクロソフト系サーバー製品およびその他のシステムの基本概念やリファレンス情報については、それぞれのマニュアルをご参照ください。

## 注意事項

BOM for Windows Ver.5.0 からは、サーバーライセンスにクライアント OS 向けライセンスが無償で付属いたしました。評価版をダウンロードし、Windows XP 等でクライアント OS 向けライセンスを試用期間の 1 ヶ月を超えてご利用になる場合、別途正規のサーバーライセンスをご購入いただく必要があります。また、インストール時や障害発生時のお問い合わせの際には、サーバライセンス・クライアントライセンス共にインシデントが必要となります。

# 目次

1. BOMの概要 .....	1
1-1. 概要.....	1
BOMのシステム要件.....	3
BOMのコンポーネント類.....	3
2. BOM for Windows Ver.5.0 システム構成.....	5
2-1. いますぐBOMを動かしてみよう（最小構成） .....	5
2-2. もっとも一般的な構成.....	6
2-3. その他の構成.....	7
2-4. 推奨する構成.....	7
3. BOM for Windows Ver.5.0 のインストール .....	8
3-1. インストールするソフトウェアの選択.....	8
3-2. BOM for Windows Ver.5.0 のインストール .....	9
3-3. カスタムインストール.....	14
4. システム設定.....	15
4-1. システム設定ウィザード.....	15
5. 初期設定 .....	19
5-1. 初期設定ウィザード.....	19
6. BOM集中監視コンソールのインストール.....	27
6-1. BOM集中監視コンソールのインストール.....	27
6-2. インストールするソフトウェアの選択.....	27
7. BOM アーカイブサーバー データベースのインストール.....	31
7-1. BOM Archive server DB for SQL 2005/for SQL 2000 のインストール... 31	
7-2. インストールするソフトウェアの選択.....	31
7-3. アーカイブサーバーの構築.....	35
7-4. アーカイブサーバーの削除.....	39

# 1. BOM の概要

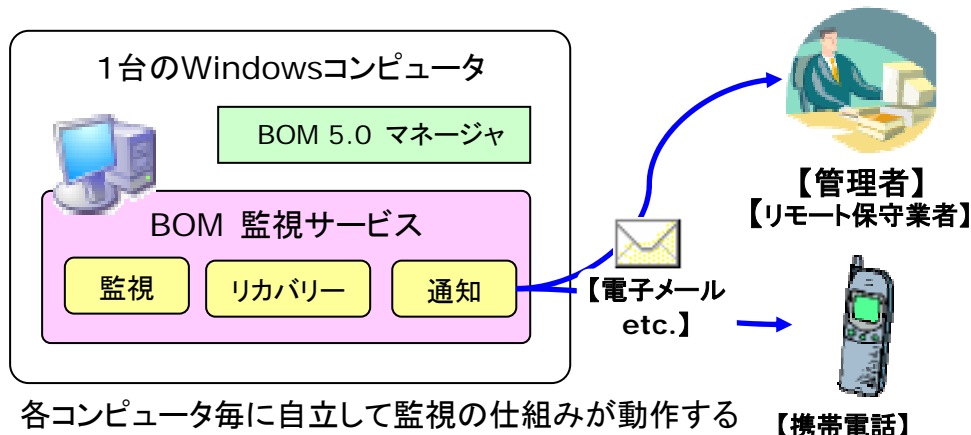
## 1-1. 概要

BOM は、Windows 2000 または Windows Server 2003 コンピュータの安定稼働を実現するソフトウェアです。

BOM は、システム管理者に代わって、Windows オペレーティングシステム、アプリケーション、およびハードウェアのパフォーマンスや状態を監視します。異常な状態を発見すると、それをシステム管理者に通知し、自動的に問題の修復処理を行うことができます。

### BOM の動作イメージ

#### 1 台の Windows コンピュータでの動作イメージ



システム管理者は、BOM によって Windows 2000 または Windows Server 2003 コンピュータを簡単かつ確実に監視ができるようになります。GUI 画面とマウス操作による設定操作で、個々のコンピュータの稼働状況やリソースを監視し、コンピュータ上で動作するアプリケーションを制御することができます。監視 ON/OFF スケジュールの設定により、曜日ごとに時間帯を設定して監視することも可能です。障害発生時には、電子メール、ポップアップを使って障害情報を通知することができます。

## BOM の特徴

サーバーハードウェア、アプリケーション(データベースやグループウェア)、業務システムについて、管理者に代わって監視、通知、リカバリー処理を行います。

導入、設定、操作が非常に簡単です。

数多くの監視テンプレートを標準で同梱しています。テンプレートを活用して、ニーズに即した監視を直ちに行うことができます。テンプレートは随時開発し、ホームページから提供しています。

イベントログメッセージ、パフォーマンスカウンタ、サービス、テキストログのいずれかに有用な情報が書き出されるアプリケーションやハードウェアを、基本パッケージを使った簡単な設定で監視することができます。

BOM は、導入されたそれぞれのサーバー上で Windows のサービスとして動作し、バックグラウンドで監視を行い、ステータスに応じて通知処理やリカバリー処理を行うことができます。コンピュータの監視および管理のために専用のサーバーを構築する必要がなく、監視に必要とするシステムリソースも小さく抑えられています。

追加のプログラムをインストールしたくない・できないサーバーを、BOM を導入した別のサーバーから監視することができます。  
この機能を代理監視機能といいます。

自立分散型監視モデルを採用することで、システム環境の拡張や変更にも柔軟に対応することができます。様々なネットワーク構成や特定用途のシステムにも適用できます。

## BOM の利用例

### 障害監視

障害発生時、直ちに管理者に通知するよう設定することで、迅速に障害対応できます。  
BOM の設定による自動リカバリー処理も可能です。

### 障害予兆監視

障害によりシステムが運用停止する前に、その予兆を検知して的確な対処を行い、保守コスト、システムダウンタイムを限りなくゼロに近づけます。

### システムリソース監視

ハードディスクやメモリ等のシステムリソースの使用状況を監視し、システムダウンや極度の性能低下など、システム運用に支障をきたす前に対処を実施し、レスポンス等のサービスレベルの低下やシステムダウンタイムを限りなくゼロに近づけます。

### 性能監視

異常な性能低下や利用者数の増大の傾向を監視し、ユーザーに対するサービスレベルの低下を未然に防ぎます。

### セキュリティ監視

オペレーティングシステムの監査機能によって書き出されるログを監視することで、アタックなどの不正なアクセスおよび重要なデータの漏洩を発見します。

## BOM のシステム要件

インストール可能な オペレーティング システム	Windows 2000 Professional / Server / Advanced Server 日本語版(SP4)	
	Windows XP Professional 日本語版 (SP2)	
	Windows Server 2003, Standard Edition / Enterprise Edition (32bit 版) 日本語版 (SP1,SP2)	
	Windows Storage Server 2003	
ハードウェア要件 (アーカイブ除く全ての 機能をインストールした 場合)	CPU	IA32(x86)アーキテクチャ準拠のコンピュータ もしくは、VMware、Virtual Server など、仮想的に同アーキテクチャを 再現できる環境
	マルチ CPU 対応	対応しています (OS のサポート範囲に準拠)
	Hyper Threading	対応しています
	使用するメモリ	20MB 以上
	ディスクの空き領域	Microsoft Windows をインストールした状態で、最低 50MB 以上の 空き領域が必要 (推奨 100MB 以上) です
	ディスプレイの設定	MMC スナップインコンソールを使う場合、256 色以上の設定 (集中監視コンソールを使う場合、「中 (16 ビット)」以上を推奨します)

## BOM のコンポーネント類

BOM は、必須コンポーネントとオプションコンポーネントで構成されています。これらのコンポーネントは、1 台のコンピュータにすべてインストールすることも、複数のコンピュータに個別にインストールすることも可能です。それぞれのコンポーネントには独自の要件があります。

必須コンポーネントは次のとおりです。

### BOM 監視サービス (BOM 監視インスタンス)

BOM 監視サービスには監視設定値とデータベースが含まれています。システム監視を実行するには、BOM 監視サービスが少なくとも 1 つ必要です。BOM 監視サービスは Windows コンピュータの中で複数起動することが可能です。各監視サービスを BOM 5.0 では監視インスタンスと呼び、各インスタンスは CPU、メモリなどのリソースを監視します。

### BOM 5.0 ヘルパーサービス

BOM ヘルパーサービスは、BOM の各コンポーネント間の通信のために機能します。BOM 5.0 マネージャ、BOM 5.0 集中監視コンソールを利用するには必須のサービスであるため、セットアップ時には自動的にインストールされます。

### BOM 5.0 マネージャ

BOM の環境では、少なくとも 1 つの「BOM 5.0 マネージャ」が必要です。BOM 5.0 マネージャは、コンピュータの監視およびアクション処理、通知処理の設定を行うために使用します。また、監視結果やアクション処理、通知処理の結果を確認することができます。BOM 5.0 マネージャは、Windows 標準のシステム管理ユーザーインターフェースであるマイクロソフト管理コンソール (MMC) のスナップインとして提供されます。

通常、BOM 5.0 マネージャは、BOM 監視サービス (BOM 監視インスタンス) と共に各監視対象コンピュータにインストールします。1 台の BOM 5.0 マネージャから、リモートの監視対象コンピュータに接続して監視設定を行うことも可能です。

オプションコンポーネントは以下のとおりです。

#### BOM 5.0 集中監視コンソール

BOM が監視対象としている複数のコンピュータの状態をグループ化して参照するための GUI です。監視対象コンピュータからステータス通知を受けるだけでなく、登録済みのコンピュータの状態を定期的にチェックして表示することができます。

監視するコンピュータの台数が多数の場合や、異なるフロアに複数の BOM 監視対象コンピュータが配置されている場合に、1 台のコンピュータに BOM 5.0 集中監視コンソールをインストールして集中監視が行えます。

#### BOM 5.0 アーカイブサービス

BOM の監視データを、長期間保存する BOM 5.0 アーカイブサーバー (SQL データベース) に格納したい場合にインストールします。

BOM 5.0 アーカイブサービスを利用するには、最低 1 台の BOM 5.0 アーカイブサーバーが構築されている必要があります。

#### BOM 5.0 アーカイブサーバー

BOM の監視データを長期間保存するためのデータベースです。SQL Server 2005/2000 の既定のインスタンス上に構築できます。小規模 (5 台以下) な環境では MSDE 2000 を利用することも可能です。BOM 5.0 アーカイブサーバーに蓄積した監視データを、BOM 5.0 アーカイブマネージャを使ってリスト表示やグラフ表示、簡単なレポート作成を行うことができます。

#### BOM 5.0 アーカイブマネージャ

BOM 5.0 アーカイブサーバーに保存されている監視データを、リスト表示やグラフ表示するためのプログラム (MMC スナップイン) です。BOM 5.0 アーカイブマネージャを利用するには、最低 1 台の BOM 5.0 アーカイブサーバーが構築されている必要があります。

#### BOM 監視テンプレート

簡単に使用できる汎用的な設定のサンプル集です。テンプレートを監視対象に合わせて選択し、実環境に合わせて簡単な設定を行うだけで監視を始めることができます。

## 2.BOM for Windows Ver.5.0 システム構成

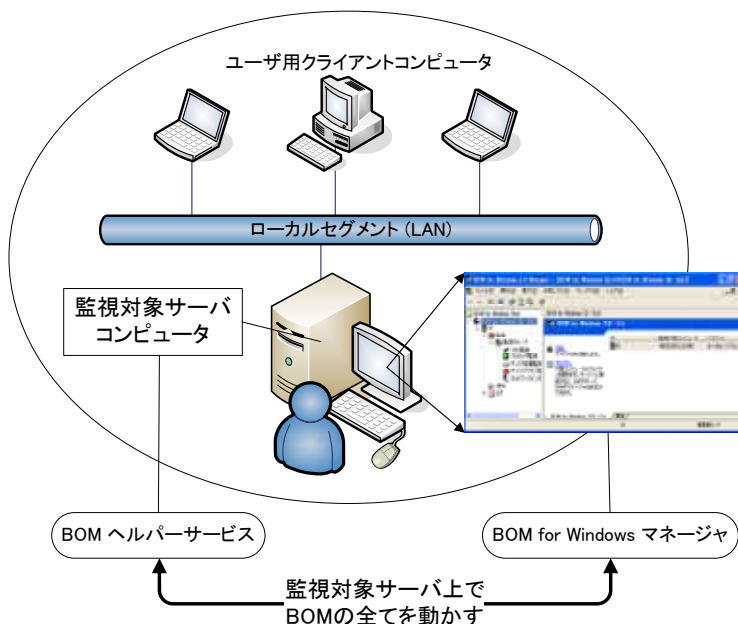
サーバー監視ソフトウェア・BOMを監視対象であるサーバコンピュータに導入した後、「システム設定ウィザード」により、システム管理者による設定や監視を行うコンピュータを決める必要があります。以下の情報を参考に、システム構成の設定を進めてください。

### 2-1. いますぐBOMを動かしてみよう（最小構成）

BOMがどのようなソフトウェアであるかを、いますぐ評価したい場合、監視対象サーバコンピュータと同じローカルセグメント(サブネット)で評価します。

この場合、監視対象コンピュータ上でBOMによる監視が行われ、同時にその動作設定を行うことができます。最小構成ではありますが、BOMのすべての機能が動作します。

注) BOM 5.0 マネージャを操作するために、監視対象コンピュータにディスプレイモニター、キーボード、マウス、CD-ROM ドライブが接続されている必要があります。



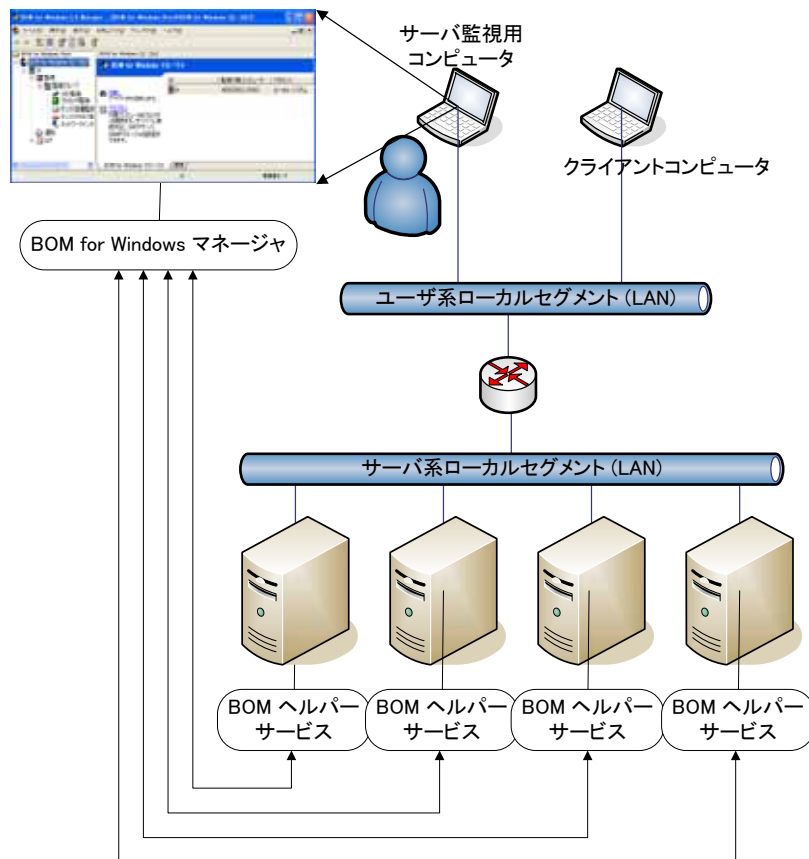


## 2-2. もっとも一般的な構成

組織内で稼働しているサーバコンピュータは1台とは限りません。数十台に及ぶ場合もあります。しかしそれらの運用・監視は、組織内 LAN を経由して、1~2名のシステム管理者が統合的に実行するのが一般的です。

BOM ヘルパーサービスは、監視対象サーバコンピュータすべてにインストールする必要がありますが、BOM 5.0 マネージャ(下図では BOM for Windows マネージャ)は、システム管理者の手元にある監視作業用コンピュータで実行し、LAN を経由してすべての BOM ヘルパーサービスと通信することができます。

万一、LAN に障害が発生した場合は、監視対象サーバコンピュータ上の BOM 5.0 マネージャを操作することによって監視を続行することができます。



### 2 - 3 .その他の構成

サーバー監視用コンピュータを、組織のネットワーク外に置く場合があります。サーバー監視作業をアウトソースする場合や、サーバーがデータセンターに設置されている場合が相当します。

この場合、BOM ヘルパーサービスと BOM 5.0 マネージャが通信を行うために、通信が行われるルータやファイアウォールに対して、BOM が使用するポート番号での通信を許可しなければなりません。

### 2 - 4 .推奨する構成

サーバコンピュータの運用監視を行うための、システム管理者が使用するコンピュータは決まっているのが普通です。このため、BOM 5.0 マネージャを稼働させるコンピュータのネットワーク上の位置は、セキュリティを保つため、以下の順を推奨します。

1. システム管理者が使用するコンピュータの IP アドレスを限定する。
2. 監視対象サーバコンピュータと同じローカルセグメント(サブネット)からのみサーバコンピュータへアクセスできるようにする。
3. 全てのコンピュータ(どのコンピュータからでもアクセスできるようにする)

### 3.BOM for Windows Ver.5.0 のインストール

#### 3-1. インストールするソフトウェアの選択

インストールするコンピュータに管理者権限でログオンしてください。BOM for Windows Ver.5.0 の CD-ROM をコンピュータの CD ドライブに挿入します。すると、インストール画面が表示されます。ここからインストールするソフトウェアをクリックします。

**注:** BOM 5.0 マネージャ・BOM 5.0 集中監視コンソールは Windows XP SP2 以降、Windows Server 2003 SP1 以降、Windows Server 2003 R2 の Windows マシンで実行します。



**注:** この画面が表示されない場合は、

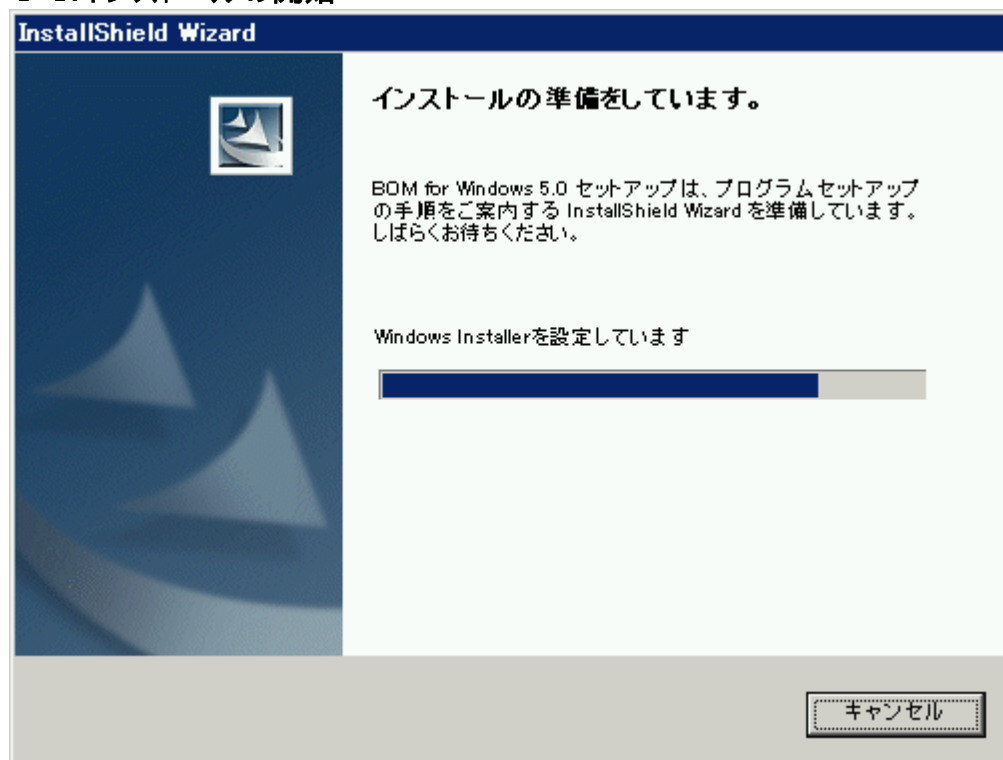
- エクスプローラを開きます。
- CD ドライブをクリックします。
- autorun.hta をダブルクリックします。

## 3-2 .BOM for Windows Ver.5.0 のインストール

### 3-2-1.インストーラの起動

[BOM Ver.5.0 のインストール] の[BOM for Windows Ver.5.0] の項目をクリックするとインストーラが起動します。

### 3-2-2.インストールの開始




そのまましばらくお待ちください。

**注:** インストールを実行しているアカウントに管理者権限があるかどうかをチェックします。アカウントに管理者権限がない場合、ランタイム エラー メッセージが表示されます。

**注:** InstallShield Scripting Runtimeがインストールされていない場合、次のようなエラーメッセージが表示されます。



この場合、をクリックし、インストールを中断し、BOM5¥BOM5 フォルダ内にある ISScript11.MSI を実行し、InstallShield Scripting Runtime をインストールします。

その際、InstallShield より「1607:InstallShield Scripting Runtime をインストールできません」と表示される場合がありますが、この原因は以下の問題が考えられるので、以下の該当する原因を取り除いた上で、再度セットアップを行ってください。

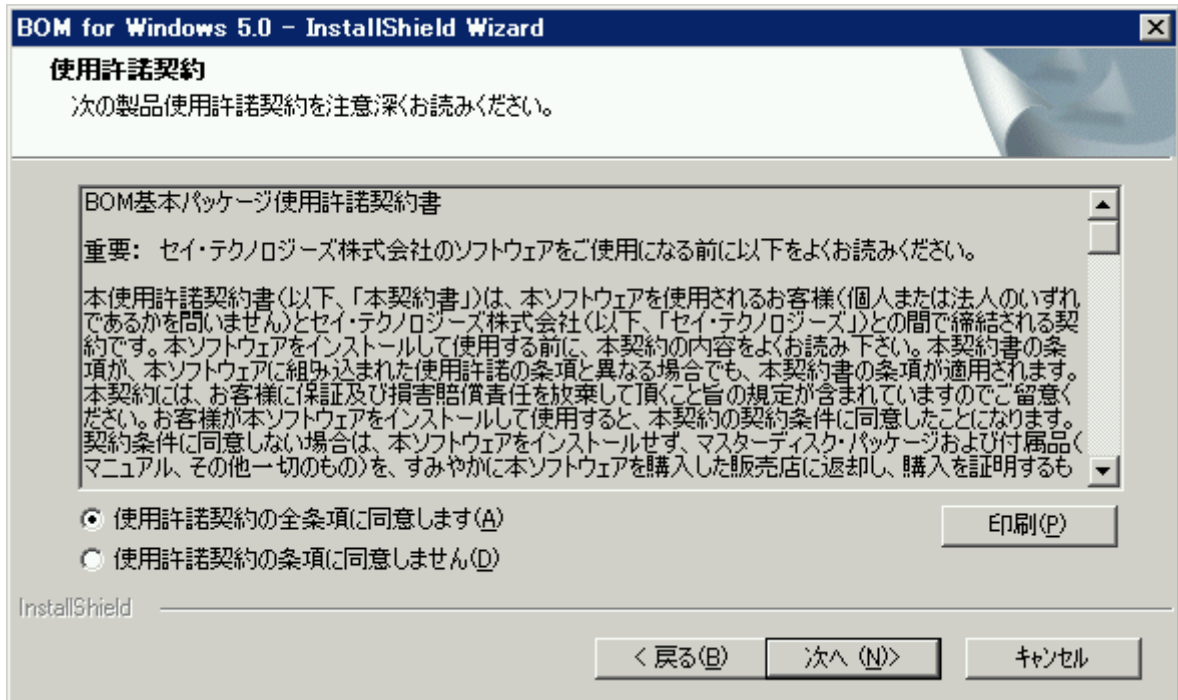
#### 原因


- ・ subst コマンドを使用して作成した仮想ドライブからセットアップ プログラムを実行している。
- ・ ドライバ IDriver.exe が正しく登録されていない。
- ・ インストーラ Msiexec.exe が正しく登録されていない。
- ・ ユーザー アカウントに、C:¥Windows¥Installer フォルダにアクセスするためのアクセス許可がない。
- ・ 古いバージョンの Windows インストーラ エンジンが、現在利用できなくなっているネットワーク ドライブからインストールされた。
- ・ コンピュータにソフトウェアをインストールするためのアクセス許可がユーザー アカウントにない。
- ・ Windows インストーラ ベースの別のセットアップ プログラムが実行されている。
- ・ Windows XP が破損している。

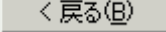
### 3-2-3.BOM for Windows インストールウィザード



## 3-2-4.使用許諾契約



使用許諾契約を読み、同意する場合は[使用許諾契約の条項に同意します]をチェックし、をクリックします。

**注:** が表示されている画面では、クリックして前の画面に戻り、インストール設定を変更することができます。

## 3-2-5.セットアップタイプの選択(標準)とインストール先フォルダの設定



実行するインストールの種類をクリックします。ここでは「標準」をクリックします。  
[カスタム]タイプをクリックした場合、「3-3 カスタムインストール(14 ページ)」に進みます。

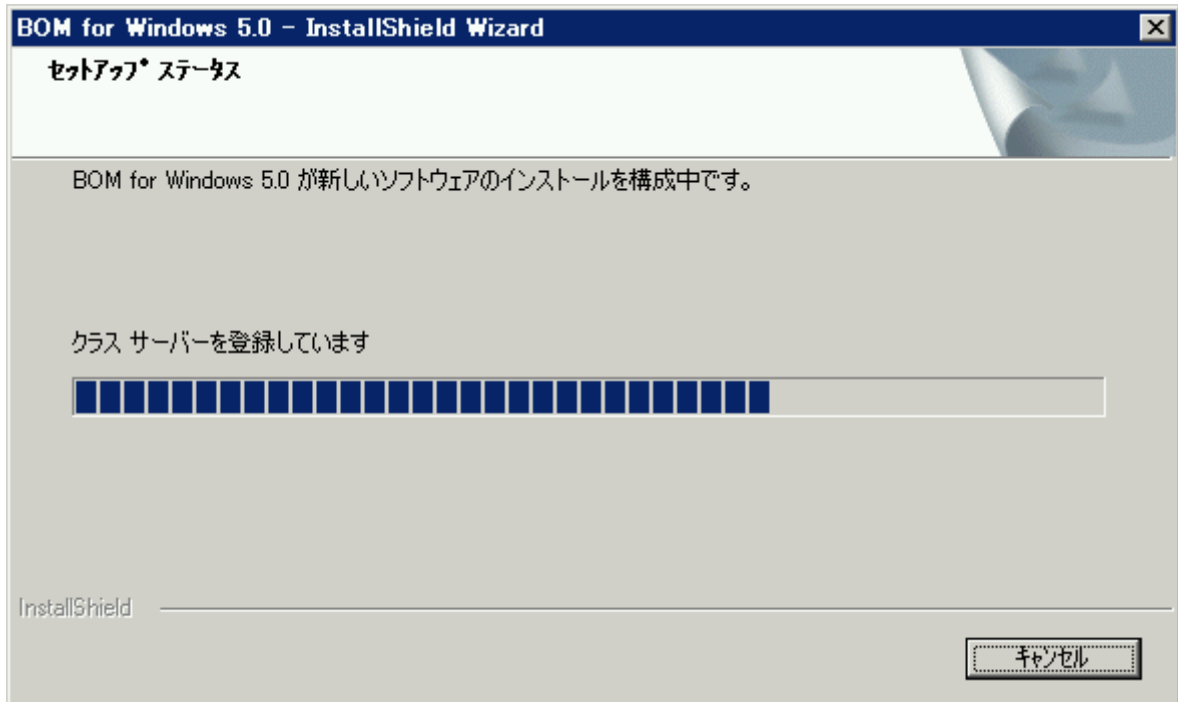
インストール先を変更するには、**参照(R)...**をクリックしてフォルダをクリックします。インストール先が初期値で問題ない場合は、特に操作は必要ありません。**次へ(N)>**をクリックします。

### 3-2-6.インストール開始確認



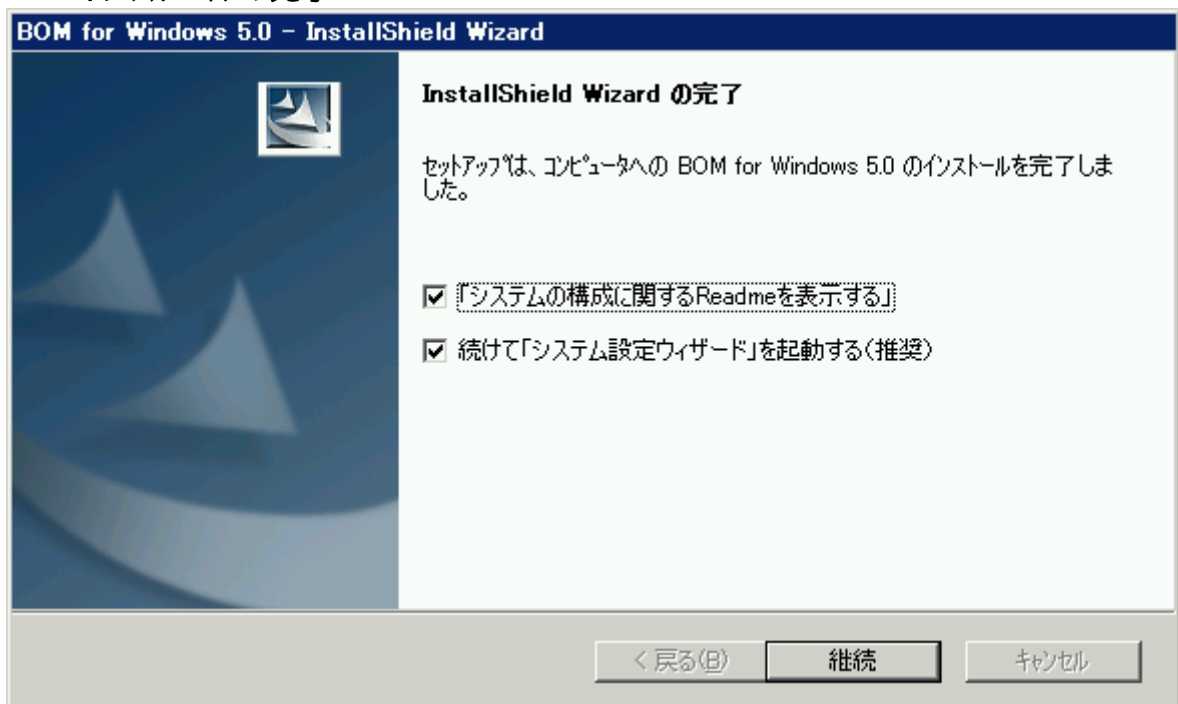
インストールを実行するには、**インストール**をクリックします。設定を見直す、または変更する場合は **< 戻る(B)** をクリックします。

### 3-2-7.BOM for Windows インストール実行中



そのまましばらくお待ちください。

### 3-2-8.インストールの完了

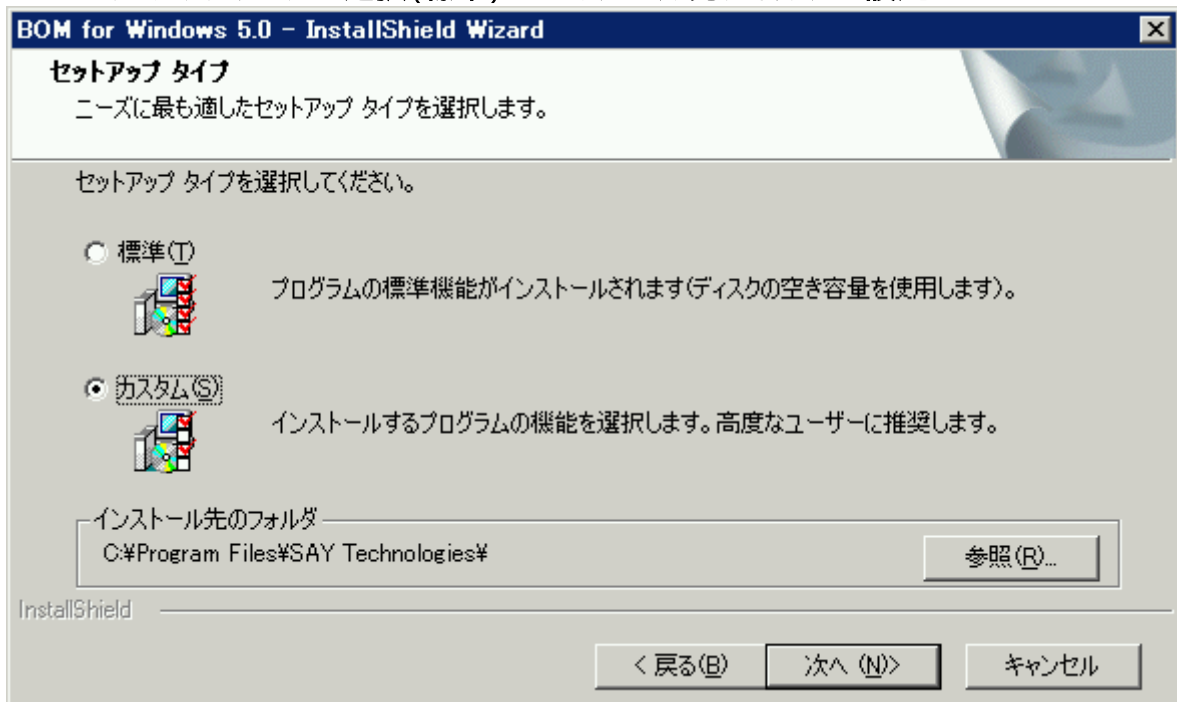


BOM for Windows のインストールが完了しました。☒ 『システムの構成に関するReadmeを表示する』  
にチェックを入れると「システムの構成に関するReadme」を表示します。続いてシステム構成ウィザードを実行する場合は☒ 続けて「システム設定ウィザード」を起動する(推奨)にチェックを入れ、  
 をクリックします。インストールを終了する場合は  
☒ 続けて「システム設定ウィザード」を起動する(推奨)のチェックをはずし、 をクリックします。



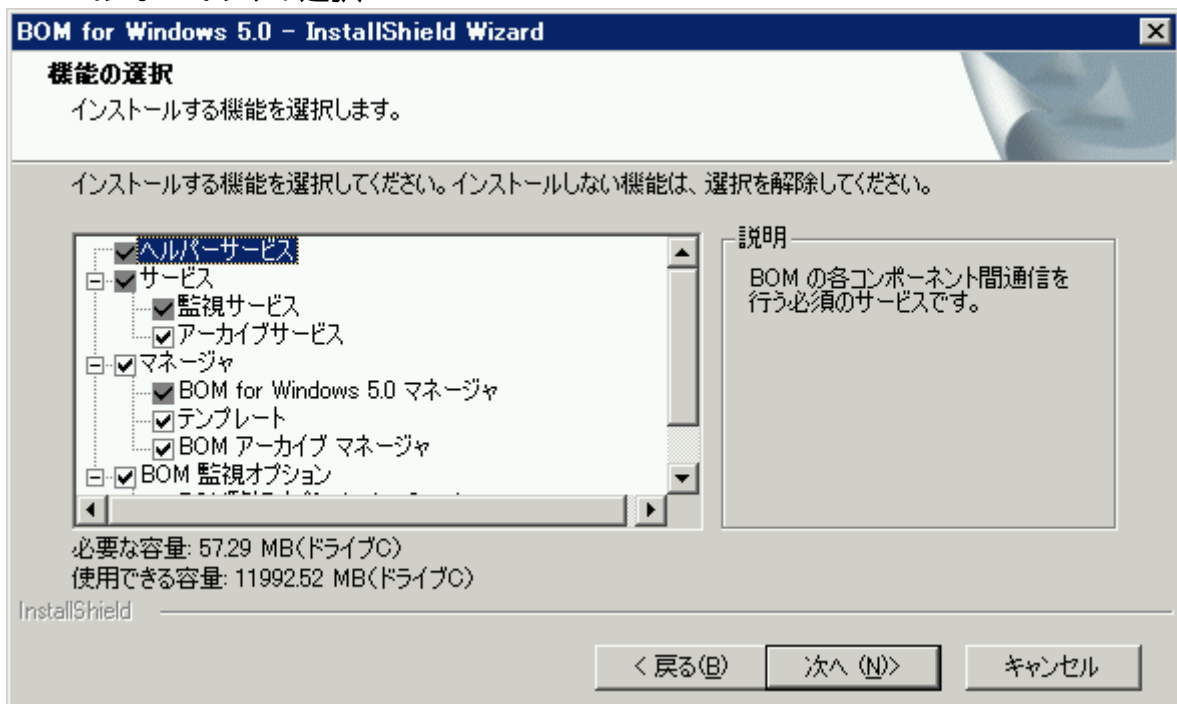
### 3-3. カスタムインストール

#### 3-3-1. セットアップタイプの選択 (標準) とインストール先フォルダの設定



[標準] タイプをクリックした場合、「3-2-5 セットアップタイプの選択 (標準) とインストール先フォルダの設定 (11 ページ)」に進みます。

#### 3-3-2. コンポーネントの選択



必要なコンポーネントにチェックを入れます。☑のついたコンポーネントは必須コンポーネントです。

### 3-3-3.インストール開始確認



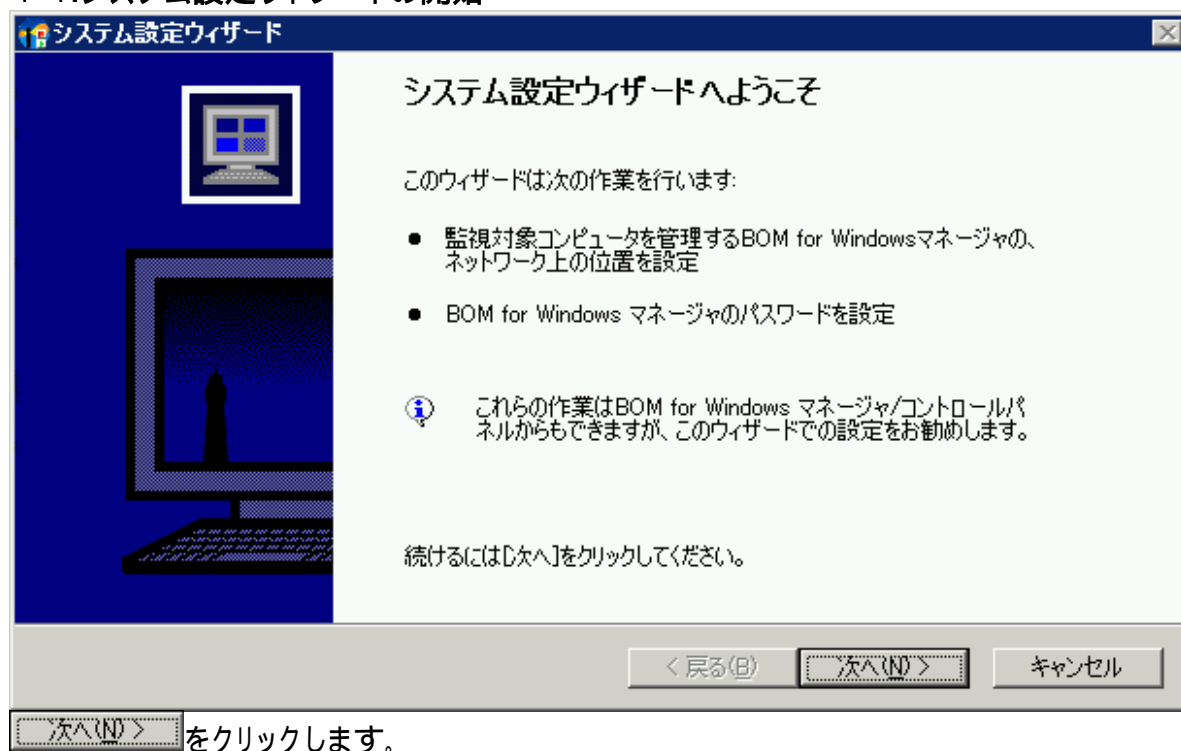
インストールを実行するには「インストール」をクリックします。以下の操作は、「3-2-6インストール開始確認(12 ページ)」からと同様です。

## 4.システム設定

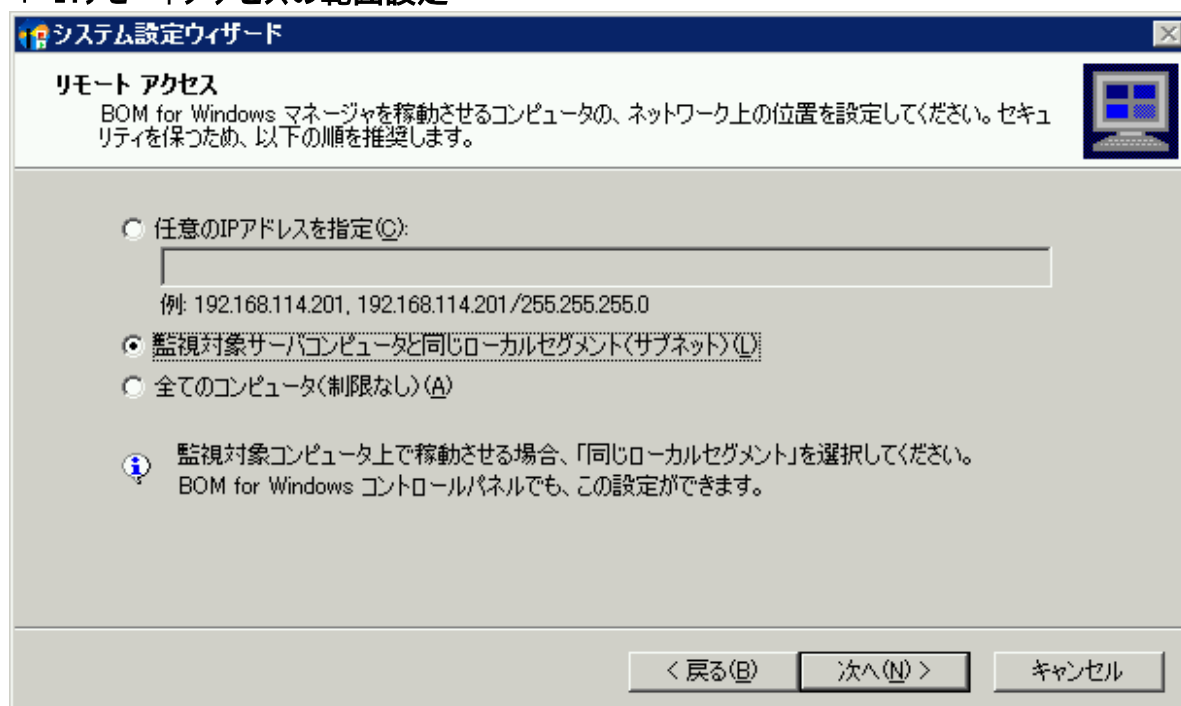
### 4-1.システム設定ウィザード

BOM の設定は BOM 5.0 マネージャあるいは BOM 5.0 コントロールパネルからでもできますが、インストールに続いてシステム設定ウィザードで行うことをお勧めします。

#### 4-1-1.システム設定ウィザードの開始



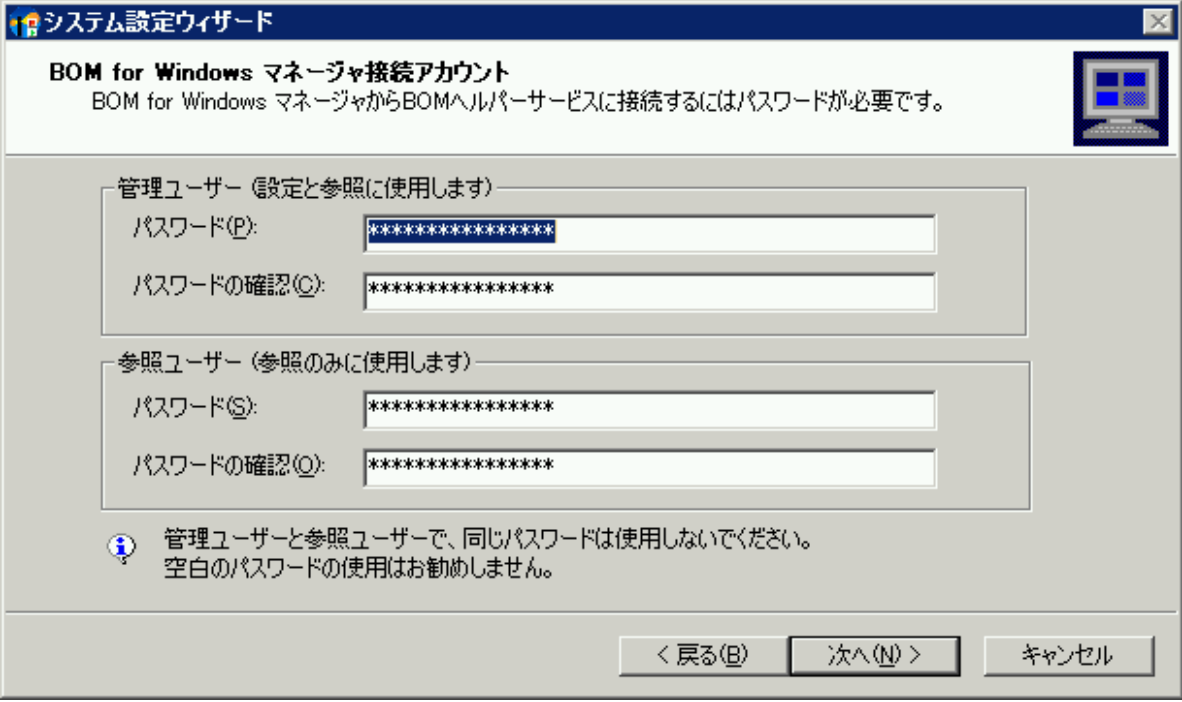
#### 4-1-2.リモートアクセスの範囲設定



BOM をインストールした他のコンピュータから BOM ヘルパーサービスをインストールした現在設定しているコンピュータにアクセス可能な範囲を設定します。設定をクリック・入力したら、**次へ(N) >** をクリックします。

**注:** [任意の IP アドレスを指定]を設定する場合、「, (カンマ)」で区切って複数の IP アドレスを指定できます。また、IP アドレスだけでなく名前解決のできるコンピュータ名、ホスト名(例:www.example.com)も指定できます。

### 4-1-3.接続アカウントの設定



システム設定ウィザード

**BOM for Windows マネージャ接続アカウント**  
BOM for Windows マネージャからBOMヘルパーサービスに接続するにはパスワードが必要です。

管理ユーザー (設定と参照に使用します)

パスワード(P): \*\*\*\*\*

パスワードの確認(Q): \*\*\*\*\*


参照ユーザー (参照のみに使用します)


パスワード(S): \*\*\*\*\*

パスワードの確認(Q): \*\*\*\*\*

管理ユーザーと参照ユーザーで、同じパスワードは使用しないでください。  
空白のパスワードの使用はお勧めしません。

< 戻る(B)    次へ(N) >    キャンセル

BOM ヘルパーサービスに接続する際のパスワードを設定します。「パスワード」と「パスワードの確認」には同じパスワードを入力します。管理ユーザーは設定と参照に、参照ユーザーは参照のみに使用します。管理ユーザーと参照ユーザーで同じパスワードは使用できません。パスワードを設定したら、をクリックします。

注: ここで何も変更せずに をクリックすると既定のパスワード bom が設定されたことになります。

### 4-1-4.システム設定開始確認



システム設定ウィザード

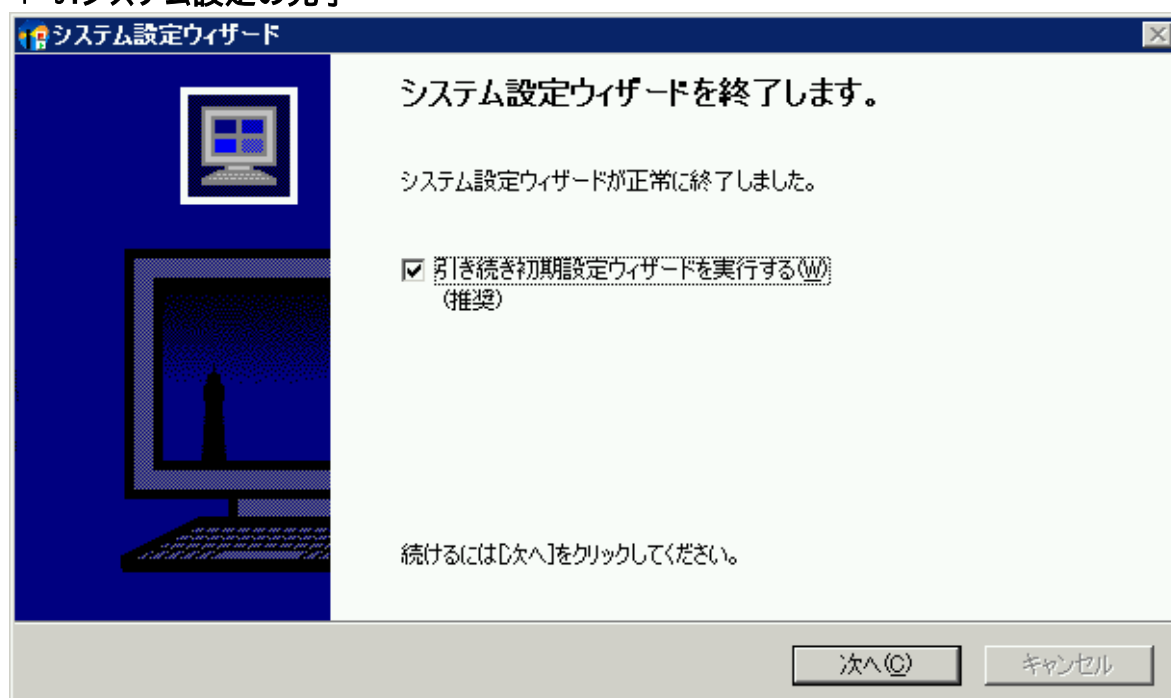
**システム設定を開始します**  
準備ができました。

設定の確認、修正には[戻る]をクリックしてください。  
続けるには[次へ]をクリックしてください。

< 戻る(B)    次へ(N) >    キャンセル

設定に問題がないようならば、**次へ(N)>**をクリックします。

#### 4-1-5.システム設定の完了



システム設定が完了しました。続いて初期設定ウィザードを実行する場合は、

☒ **引き続き初期設定ウィザードを実行する(W)**  
(推奨)

にチェックを入れ、**次へ(N)**をクリックします。実行し

ない場合は、☒ **引き続き初期設定ウィザードを実行する(W)**  
(推奨)

のチェックを外し、**完了(F)**をクリックして終了します。

## 5.初期設定


### 5-1.初期設定ウィザード


初期設定ウィザードでは、環境設定と監視インスタンス設定を行います。これらの設定はBOM 5.0 マネージャでも行えますが、このウィザードで設定することをお勧めします。

#### 5-1-1.初期設定ウィザードの開始




### 5-1-2.ライセンスキーの入力


**初期設定ウィザード**

**インスタンスの作成 - ライセンス**


インスタンスの作成ごとに有効なライセンスキーを入力してください。

ライセンス キー(L):


 クライアント無償版或いは評価版ライセンス(30日間有効)を初めて利用する場合は、空白にしてください。  
 サーバOSを除くWindows 2000 Pro/XP 以後のOSはクライアント無償版を利用できますが、代理監視には利用できません。

---

次のライセンス キーが利用可能です①:

ライセンスキー	カテゴリ	ライセンス数	状態
00000-00000-00000-00000-00000-00000-00000-00000	通常版	200	
00000-00000-00000-00000-00000-00000-00000-00000	評価版	200	[2007/09/21-2...

ライセンス キーを入力します。あるいは、評価版として使用する場合には、このフィールドを空白のままにします。入力を終えたら をクリックします。

### 5-1-3.監視対象コンピュータとインスタンス ID の設定

**初期設定ウィザード**


**インスタンスの作成 - 監視対象コンピュータ**

このインスタンスで監視するコンピュータ名とインスタンスIDを入力してください。

監視対象コンピュータ: ☒ ローカルコンピュータ(L) ☐ 代理監視コンピュータ(R)

コンピュータ名(N):


インスタンス ID(I):


 次の文字が使用できます:  
a-z, A-Z, 0-9, -, \_

設定後は、対象インスタンス、コンピュータ名、インスタンス IDの変更  
できませんので、注意してください。

< 戻る(B)      次へ(N) >      キャンセル

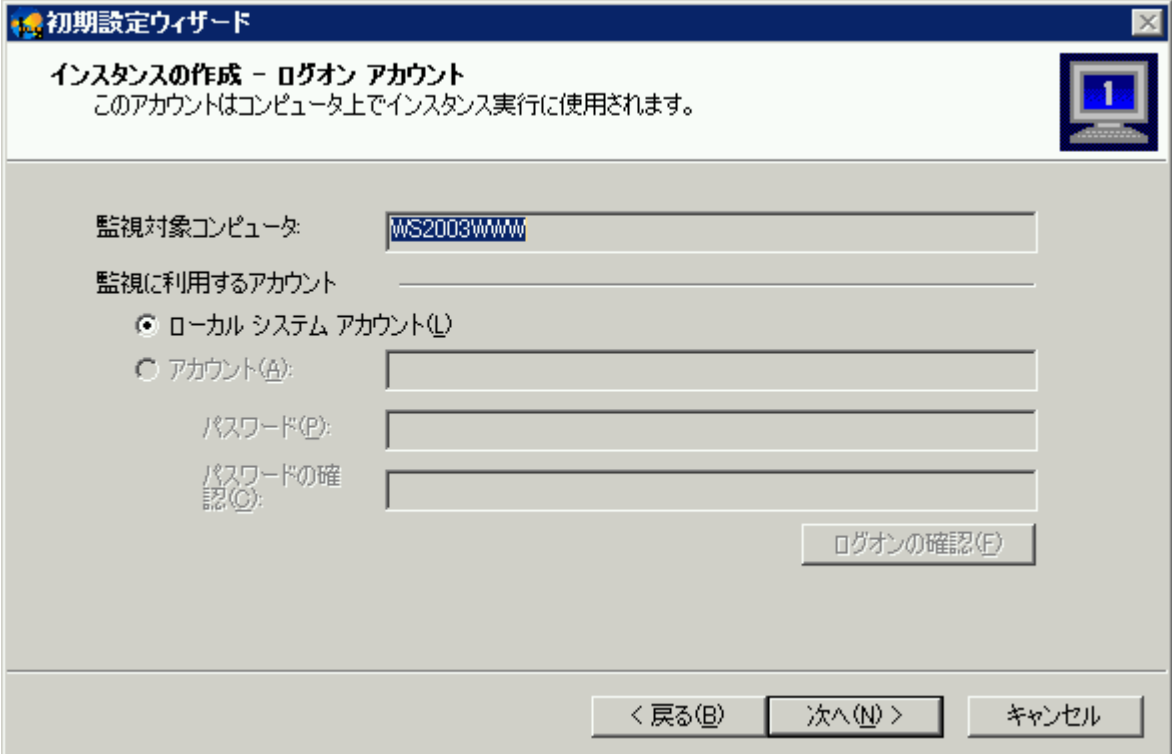
まず、監視対象コンピュータを [ローカルコンピュータ] か [代理監視コンピュータ] から選び、[コンピュータ名] と [インスタンス ID] を入力します。[インスタンス ID] は固有の ID にする必要があり、登録後に変更することはできません。また、[代理監視コンピュータ] を選

択中に  をクリックすると、コンピュータをダイアログから選択できます。



入力を終えたら  をクリックします。代理監視コンピュータの設定には次項のログオンアカウントでの設定が必要になります。

**注:** インスタンス名は必ず 15 文字以内にしてください。使用できる文字は半角英数文字の a-z, A-Z, 0-9, - (ハイフン), \_ (アンダーバー) です。

#### 5-1-4. ログオンアカウントの設定



The image shows a Windows-style dialog box titled "初期設定ウィザード" (Initial Setup Wizard) with a sub-header "インスタンスの作成 - ログオン アカウント" (Instance Creation - Logon Account). Below the sub-header is a note: "このアカウントはコンピュータ上でインスタンス実行に使用されます。" (This account is used for instance execution on the computer). The dialog contains several input fields: "監視対象コンピュータ" (Target Computer) with the text "WS2003WWW", "監視に利用するアカウント" (Account to use for monitoring) with a radio button selected for "ローカル システム アカウント (L)" (Local System Account) and another for "アカウント (A)" (Account), and "パスワード (P)" (Password) and "パスワードの確認 (C)" (Confirm Password) fields. A "ログオンの確認 (F)" (Confirm Logon) button is at the bottom right. At the very bottom are three buttons: "< 戻る (B)" (Back), "次へ (N) >" (Next), and "キャンセル" (Cancel).

監視対象コンピュータにログオンするためのアカウントを設定します。ローカルコンピュータを監視する場合には[ローカル システム アカウント]のデフォルトの設定で監視が可能です。代理監視を行う場合には[アカウント]を設定します。アカウントとパスワードを入力し、 をクリックすると、ログオンが成功した場合は [ログイン成功] というダイアログが表示されます。代理監視のアカウントについては「0」の項目を参照してください。入力を終えたら  をクリックします。

**注:** 代理監視ではなく、ローカルコンピュータを監視する場合に、ローカルシステムアカウントではなく、他のアカウントをサービスアカウントに設定を行いたい場合には、管理ツールのサービスから監視サービスに対してアカウント設定を行って下さい。その際には、「0」の項目を参照し、適切な権限をアカウントに付与してください。



### 5-1-5.サービスのスタートアップの種類を選択


**初期設定ウィザード**

**インスタンスの作成 - サービス開始**  
インスタンスはウィンドウズのサービスとして実行されます。

サービス名: BOM5Agent\$WS2003WWW

スタートアップの種類(T): 自動

< 戻る(B)    次へ(N) >    キャンセル

インスタンスは Windows のサービスとして実行されます。[スタートアップの種類] を [自動] か [手動] かクリックし、をクリックします。

### 5-1-6.データのインポート処理選択

**初期設定ウィザード**

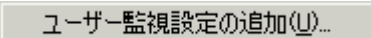
**インスタンスの作成 - データのインポート**  
テンプレートとユーザー設定をインスタンスにインポートします。

インポートデータ:

名前	タイプ	パス
----	-----	----

ユーザー監視設定の追加(U)...    テンプレートの追加(T)...    削除(D)

< 戻る(B)    次へ(N) >    キャンセル

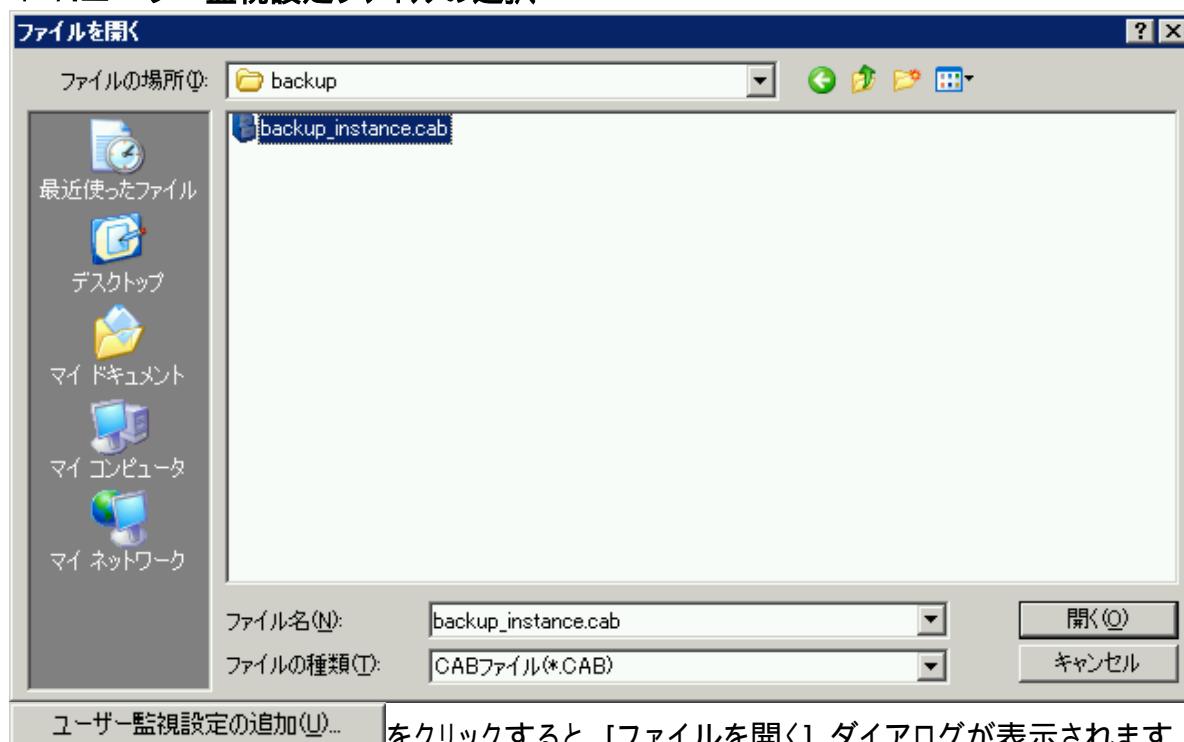
監視設定が2台目以降であらかじめ監視設定値が保存されている場合には、をクリックすると、[ファイルを開く] ダイアログが開きます。

初めて BOM for Windows をインストールする場合は、追加する設定値はありません。

「テンプレート」を追加するには、**テンプレートの追加(T)...** をクリックします。

「ユーザー監視設定」または「テンプレート」をインポートしない場合は、**次へ(N) >** をクリックして続行します。

#### 5-1-7.ユーザー監視設定ファイルの選択



**ユーザー監視設定の追加(U)...** をクリックすると、[ファイルを開く] ダイアログが表示されます。

インポートするユーザー監視設定ファイルをクリックし、**開く(O)** をクリックします。[データのインポート] ダイアログに戻るには、**キャンセル** をクリックします。

## 5-1-8.テンプレートファイルの追加



テンプレートの追加(I)... をクリックすると、[テンプレートのインポート] ダイアログが表示されます。

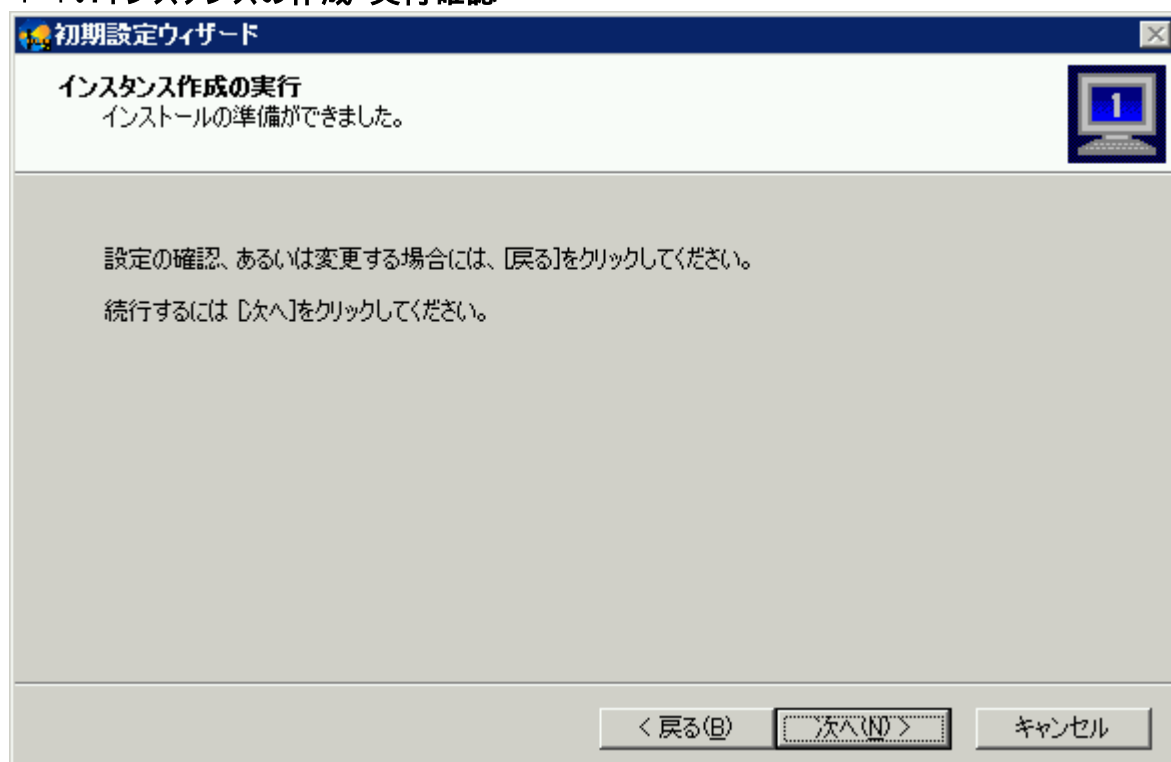
インポートするテンプレートをクリックし、**インポート(I)** をクリックします。[データのインポート] ダイアログに戻るには、**キャンセル** をクリックします。

## 5-1-9.データのインポート確認



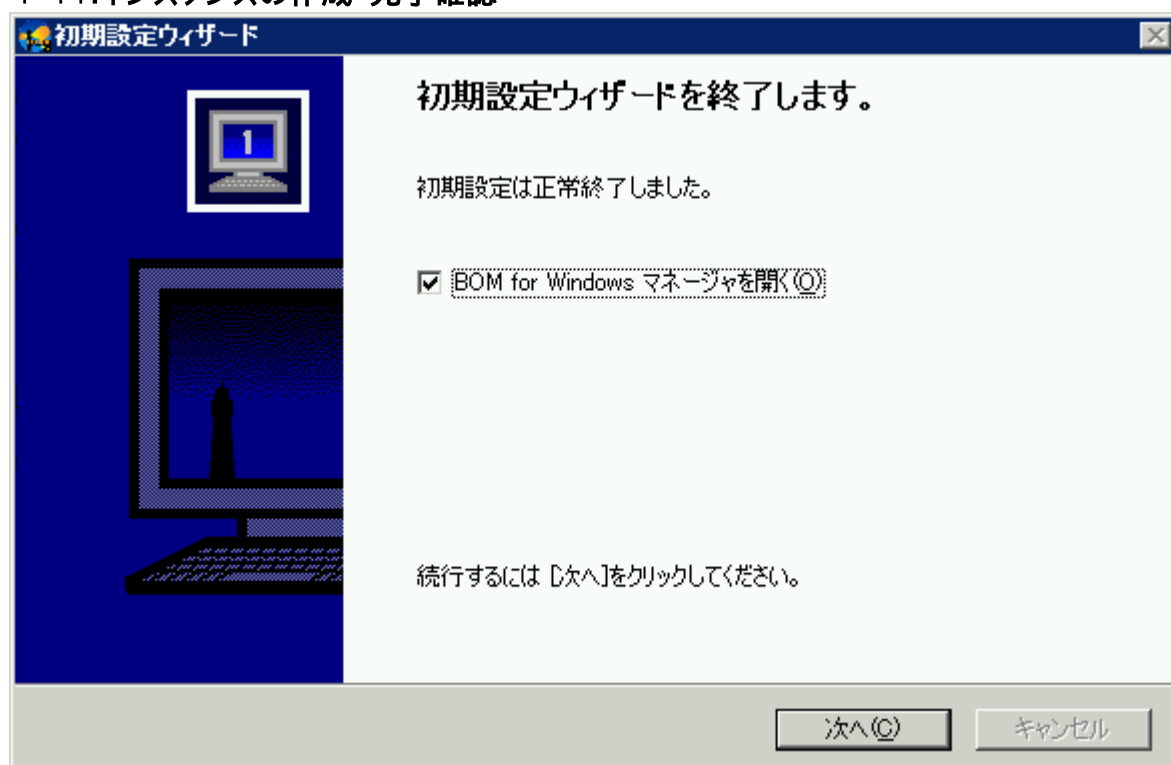
クリックした「ユーザ監視設定」と「テンプレート」データファイルのパスが表示されます。  
 をクリックして続行します。

## 5-1-10.インスタンスの作成 実行確認



インスタンスの作成を実行するには、 をクリックして続行します。

## 5-1-11.インスタンスの作成 完了確認



[初期設定ウィザード] によって、新しいインスタンスがセットアップされます。

ウィザードを完了するには ☒ BOM for Windows マネージャを開く(O) のチェックをはずして

をクリックします。ウィザードを終了し、引き続き BOM 5.0 マネージャを起動するには ☒ BOM for Windows マネージャを開く(O) のチェックを入れて  をクリックして続行します。

## 6.BOM 集中監視コンソールのインストール

### 6-1.BOM 集中監視コンソールのインストール

### 6-2.インストールするソフトウェアの選択

インストールするコンピュータに管理者権限でログオンしてください。BOM for Windows Ver.5.0 の CD-ROM をコンピュータの CD ドライブに挿入します。すると、インストール画面が表示されます。ここから BOM 集中監視コンソールをクリックします。

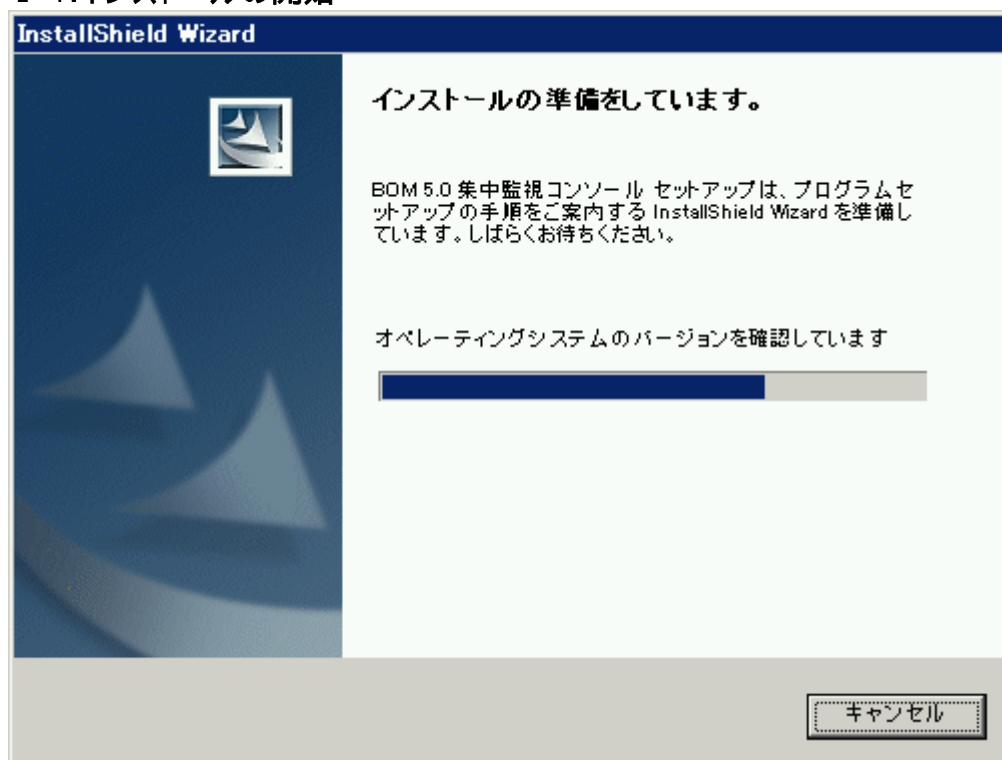
**注:** BOM 5.0 マネージャ・BOM 5.0 集中監視コンソールは Windows XP SP2 以降、Windows Server 2003 SP1 以降、Windows Server 2003 R2 の Windows マシンで実行します。



**注:** この画面が表示されない場合は、

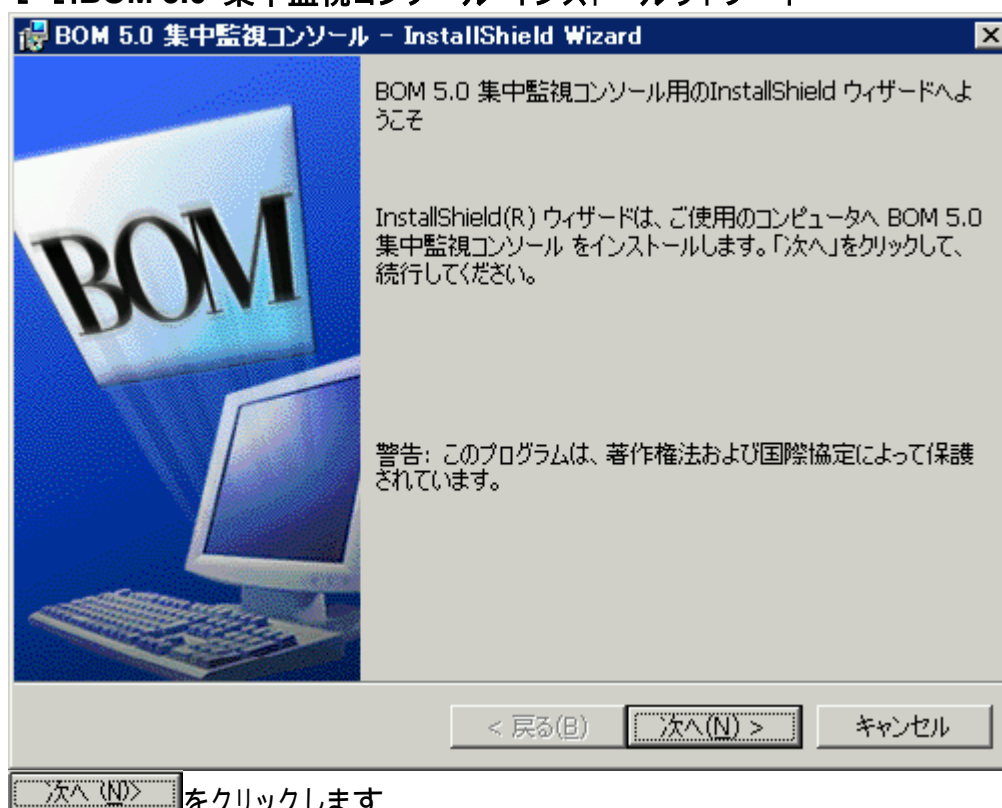
- エクスプローラを開きます。
- CD ドライブをクリックします。
- autorun.hta をダブルクリックします。

## 6-2-1.インストールの開始



そのまましばらくお待ちください。

## 6-2-2.BOM 5.0 集中監視コンソール インストールウィザード

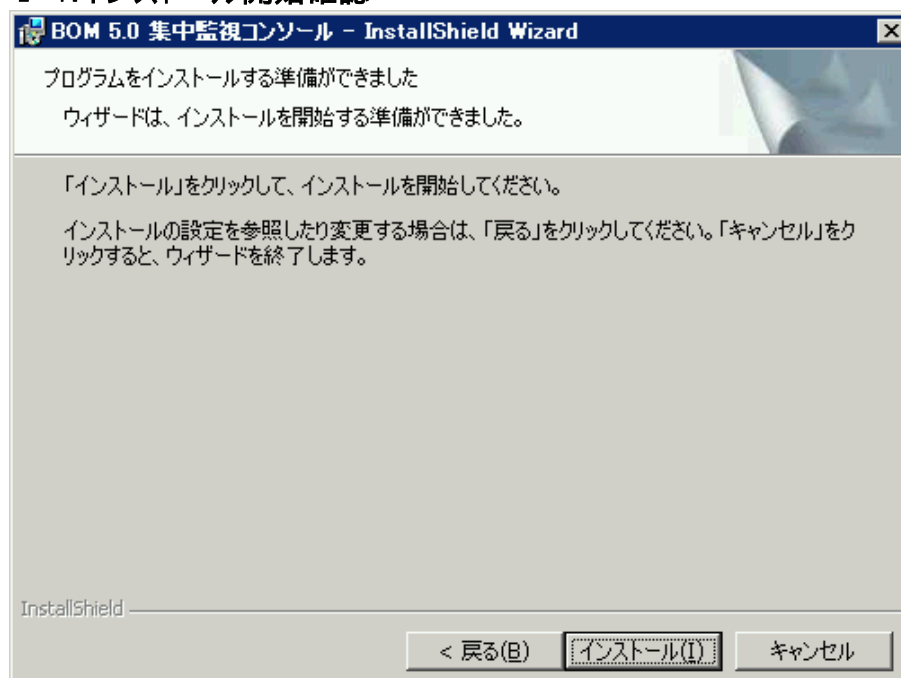


### 6-2-3.インストール先



インストール先を変更するには、**変更(C)...**をクリックしてフォルダをクリックします。インストール先が初期値で問題ない場合は、**次へ(N) >**をクリックします。

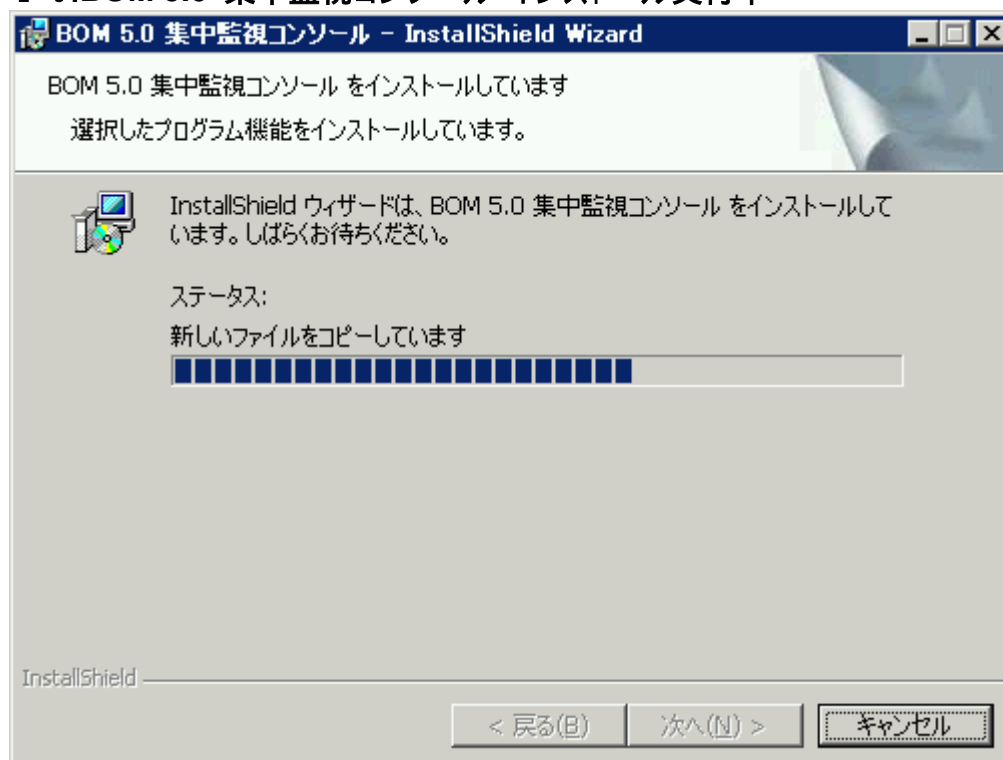
### 6-2-4.インストール開始確認



インストールを実行するには、**インストール**をクリックします。設定を見直す、または変更する場合は **< 戻る(B)** をクリックします。

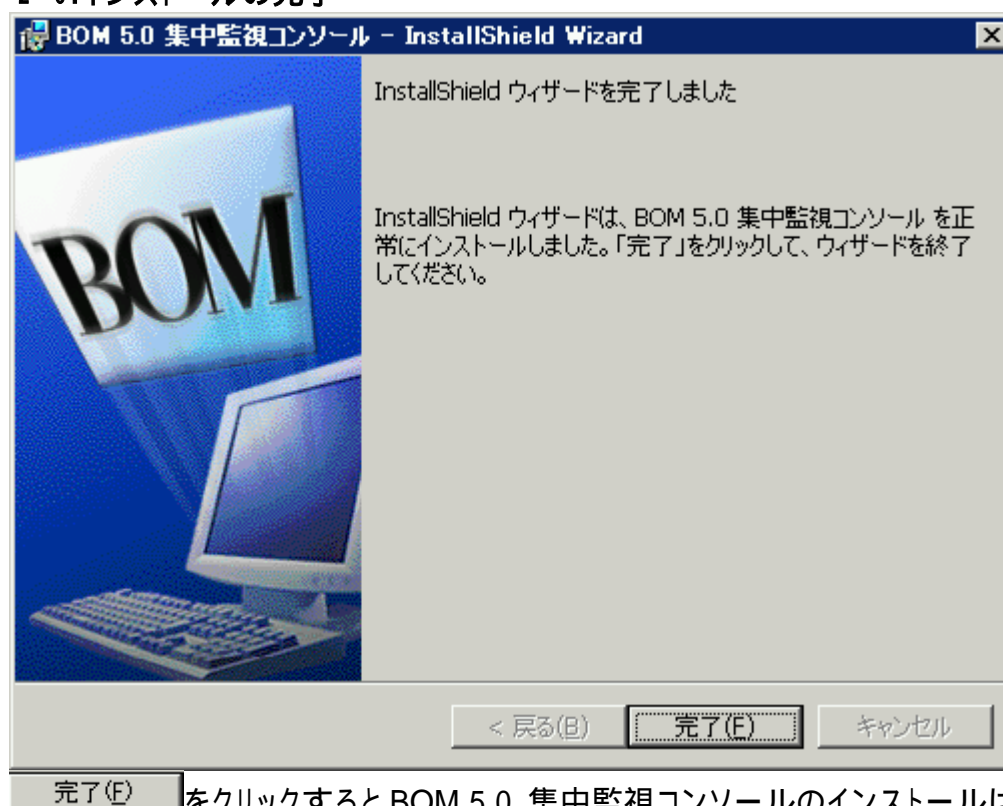


### 6-2-5.BOM 5.0 集中監視コンソール インストール実行中



そのまましばらくお待ちください。

### 6-2-6.インストールの完了



## 7.BOM アーカイブサーバー データベースのインストール

### 7 - 1 .BOM Archive server DB for SQL 2005/for SQL 2000 のインストール

BOM アーカイブサーバー データベース for SQL 2005/for SQL 2000 の動作には Microsoft SQL Server 2005 もしくは Microsoft SQL Server 2000 がインストールされており、SQL データベースサーバーが構築されている必要があります。

BOM アーカイブサーバー データベース for SQL 2000 と BOM アーカイブサーバー データベース for SQL 2005 が存在しますが、インストーラは同様の動作をしますので、ここでは BOM アーカイブサーバー データベース for SQL 2005 インストールウィザードによるインストールを説明します。

### 7 - 2 .インストールするソフトウェアの選択

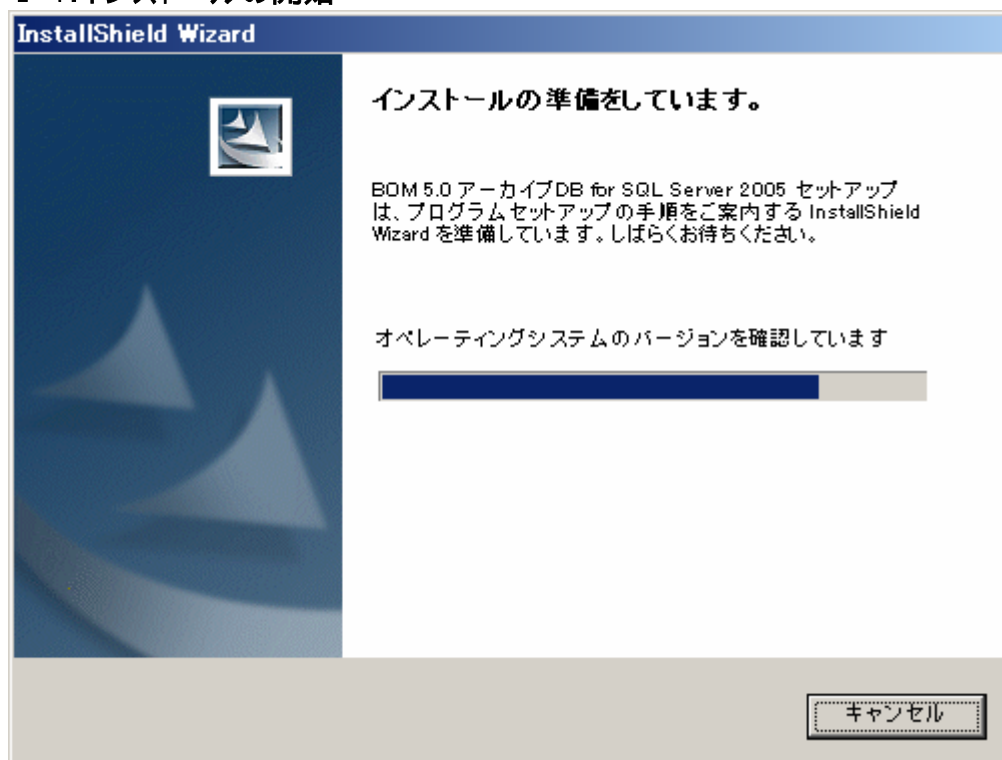
インストールするコンピュータに管理者権限でログオンしてください。BOM for Windows Ver.5.0 の CD-ROM をコンピュータの CD ドライブに挿入します。すると、インストール画面が表示されます。ここから BOM アーカイブ DB for SQL 2005 をクリックします。



**注:** この画面が表示されない場合は、

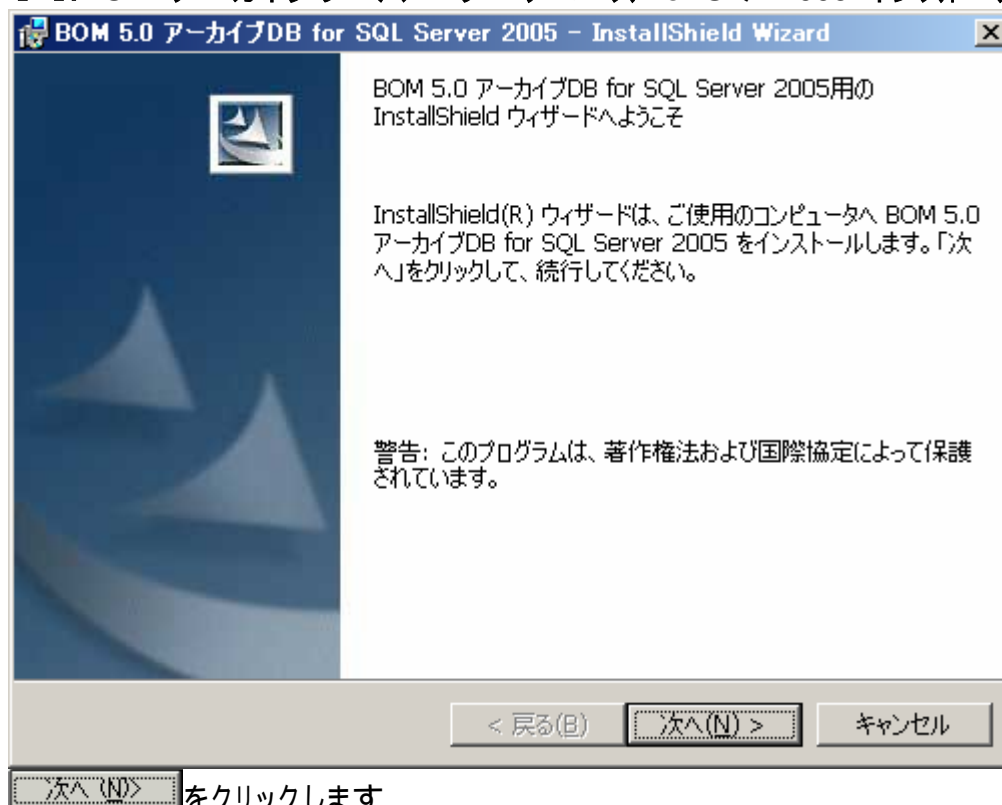
- エクスプローラを開きます。
- CD ドライブをクリックします。
- autorun.hta をダブルクリックします。

### 7-2-1.インストールの開始



そのまましばらくお待ちください。

### 7-2-2.BOM アーカイブサーバー データベース for SQL 2005 インストールウィザード

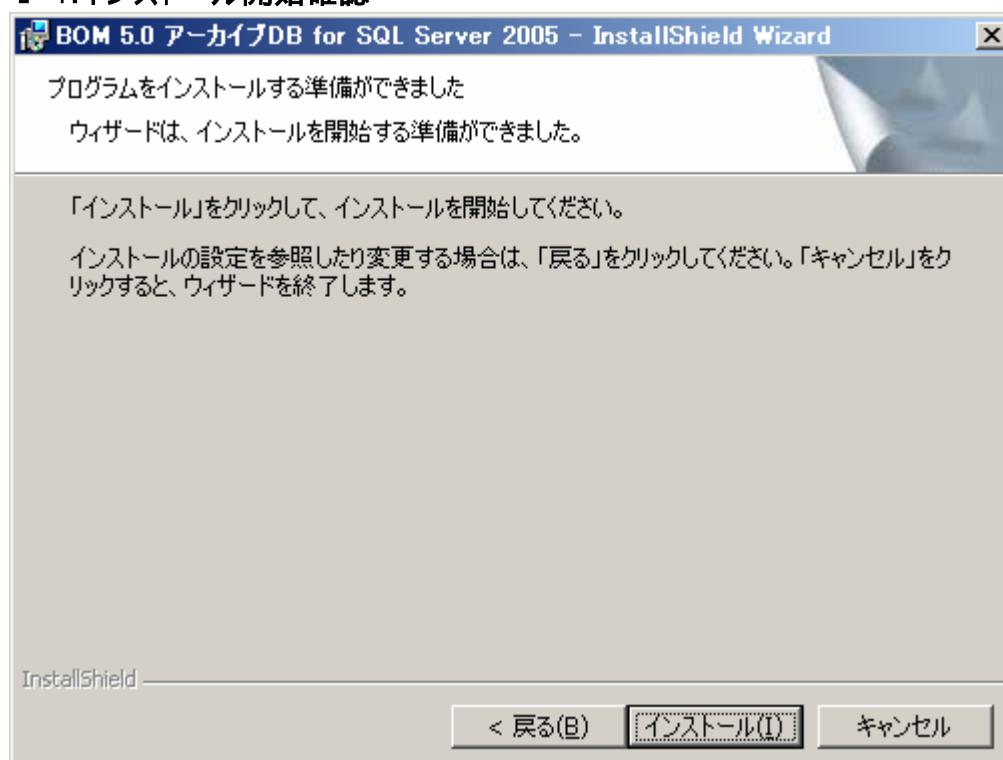


### 7-2-3.インストール先



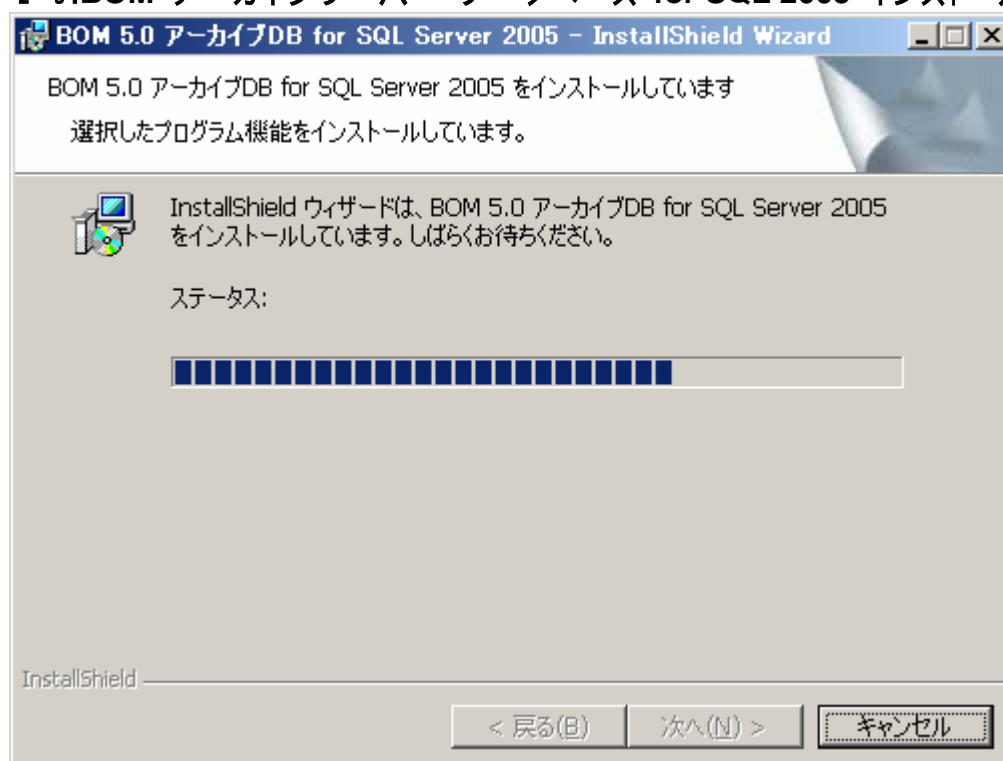
インストール先を変更するには、**変更(C)...**をクリックしてフォルダをクリックします。インストール先が初期値で問題ない場合は、**次へ(N) >**をクリックします。

### 7-2-4.インストール開始確認



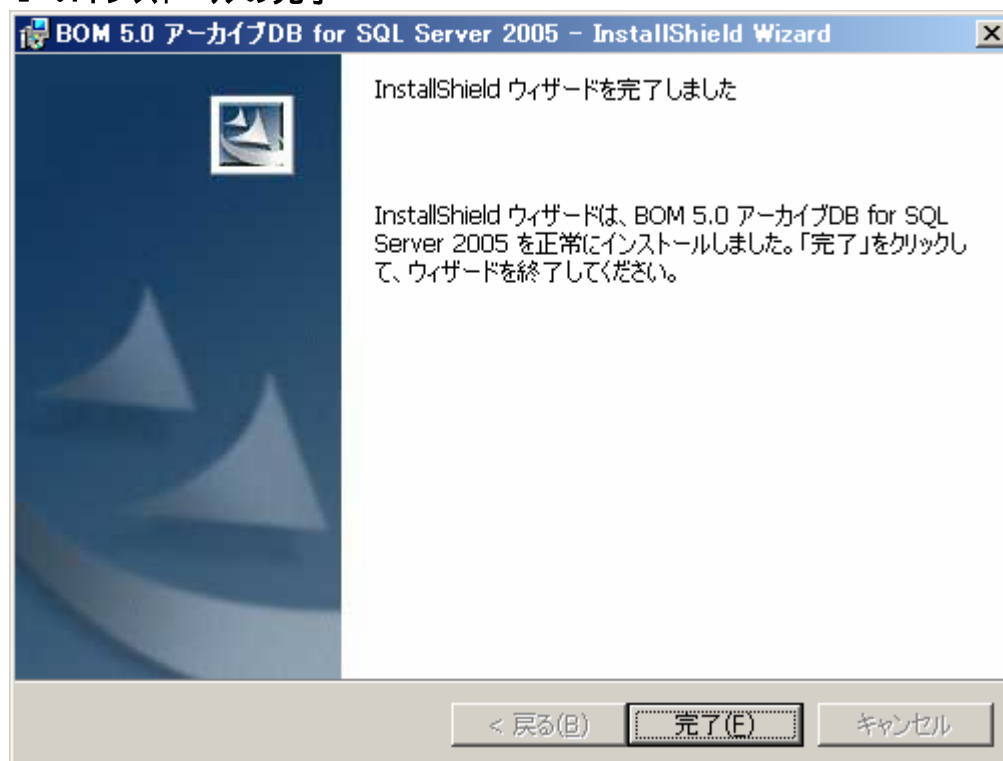
インストールを実行するには、**インストール(I)**をクリックします。設定を見直す、または変更する場合は **< 戻る(B)** をクリックします。

### 7-2-5.BOM アーカイブサーバー データベース for SQL 2005 インストール実行中



そのまましばらくお待ちください。

### 7-2-6.インストールの完了

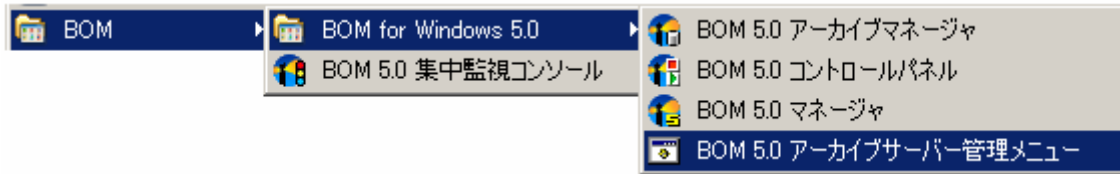


**完了(F)** をクリックすると BOM アーカイブサーバー データベース for SQL 2005 のインストールは終了します。

### 7-3.アーカイブサーバーの構築

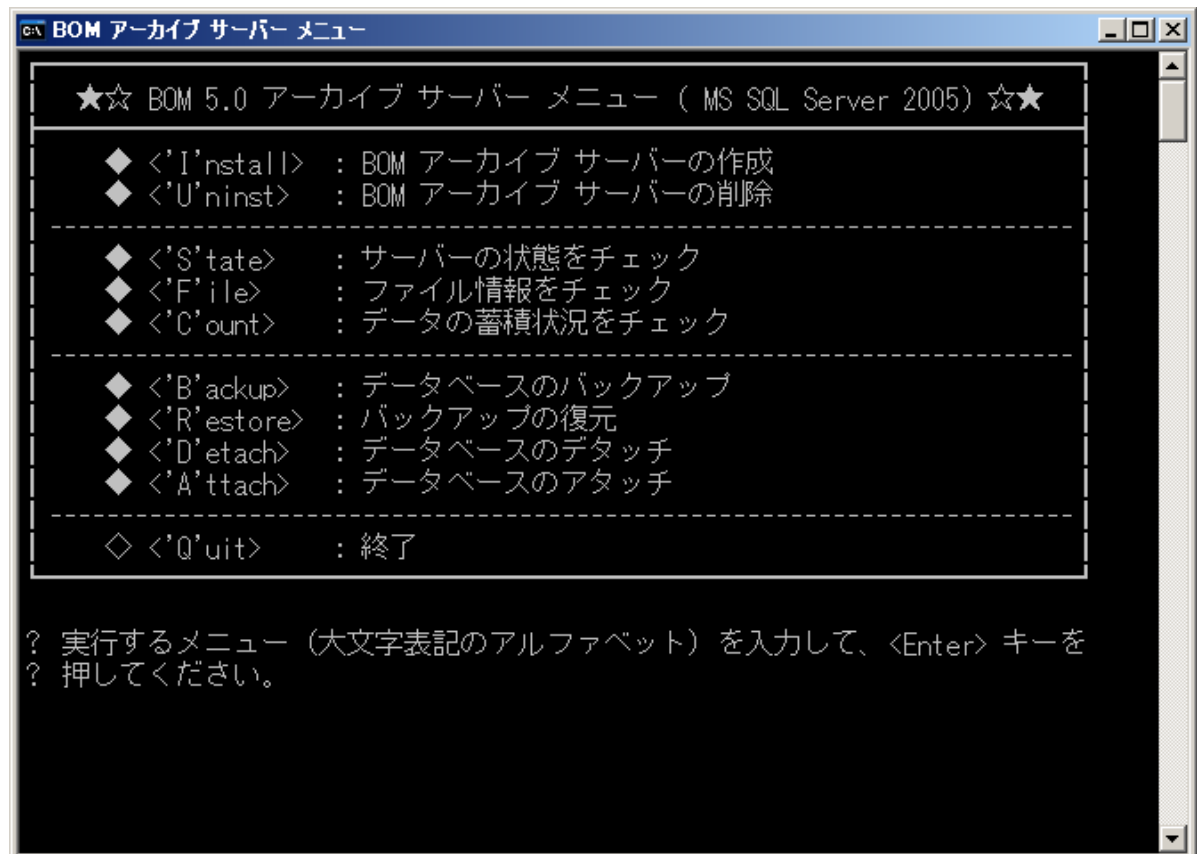
アーカイブサーバーの構築はインストーラでは行えません。別途スタートメニューに登録されたバッチファイルを実行する必要があります。

スタートメニューの[すべてのプログラム]-[BOM]-「BOM for Windows 5.0」-「BOM 5.0 アーカイブサーバー管理メニュー」をクリックし、クリックします。

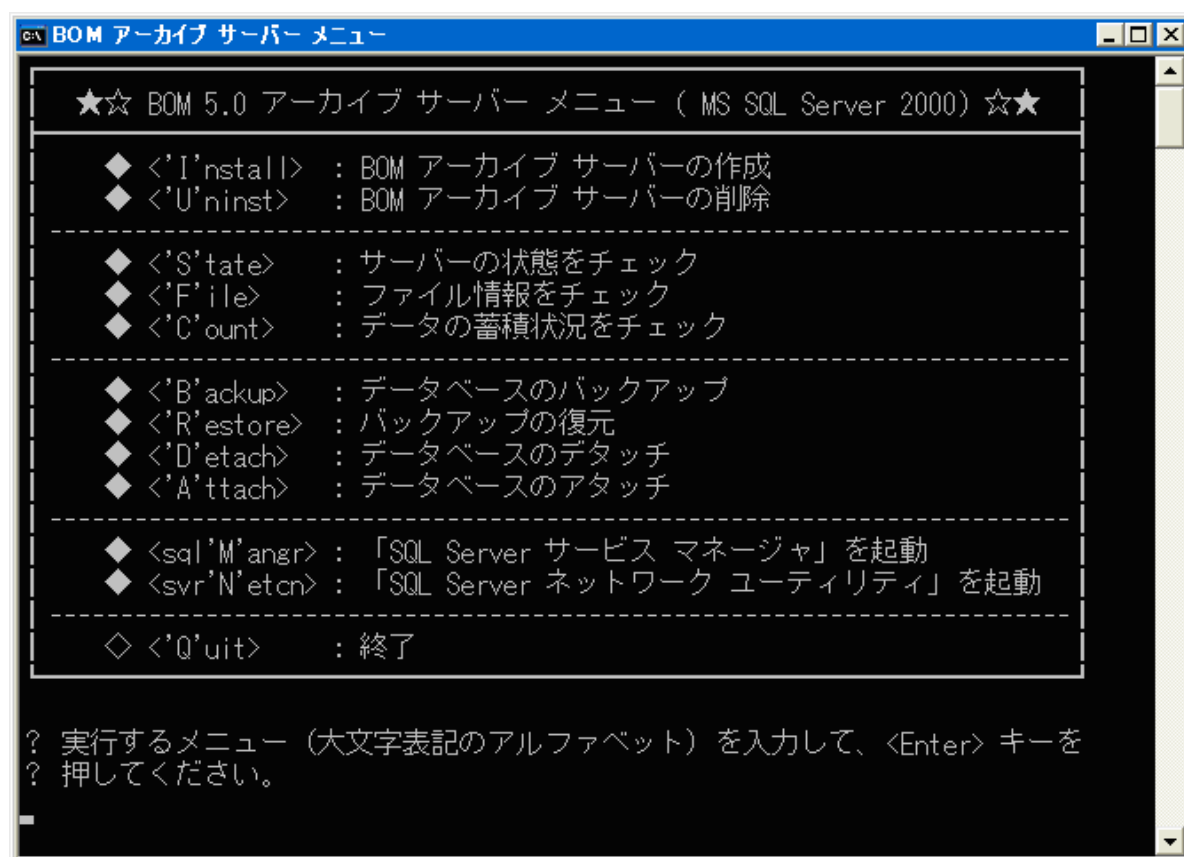


すると、以下のような設定メニューを備えたバッチファイルが実行されます。

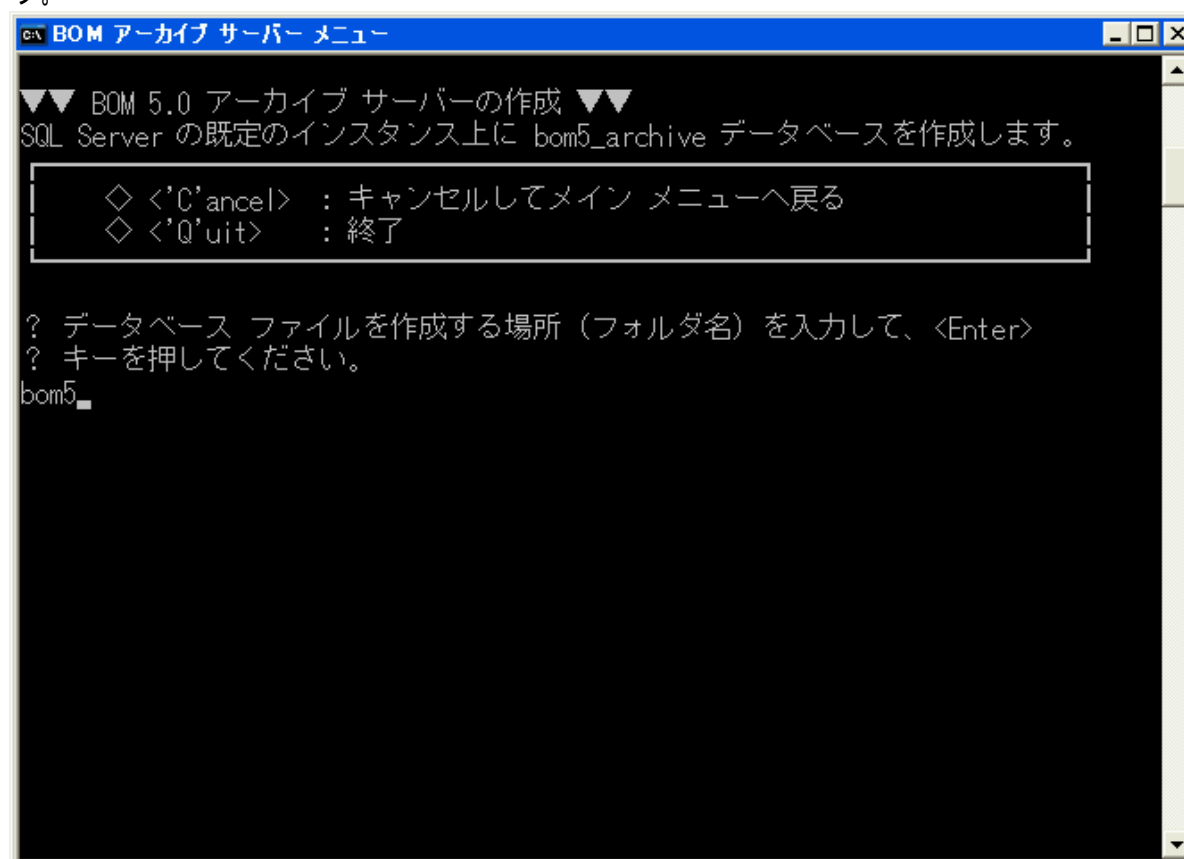
BOM 5.0 アーカイブサーバーを作成するには I と入力し、<Enter>キーを押します。



なお、BOM アーカイブサーバー データベース for SQL 2000 の場合には以下の画面が表示されます。



次にデータベース ファイルを作成する場所(フォルダ名)を入力して<Enter>キーを押します。









サーバーの作成スクリプトが実行され、実行の状態がコマンドプロンプト画面に表示されます。

作成が正常に完了すると、「スクリプトは正常に終了しました」と表示し、「続行するには何かキーを押してください．．．．．」で止まります。

正常に完了した場合は、何かキーを押してとコマンドプロンプトを閉じ、アーカイブデータベースの作成を完了します。

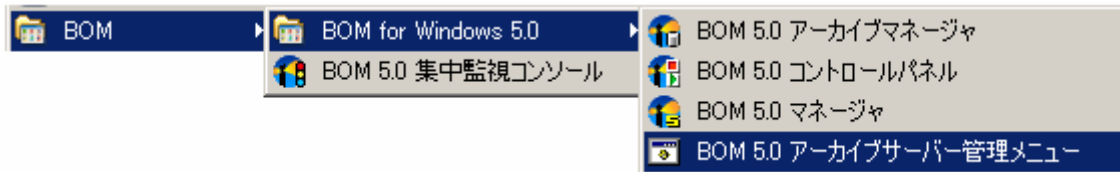
[BOM 5.0 アーカイブ サーバーの作成]を実行して、エラーが発生した場合は、次の点を確認してください。

- ・ SQL サーバーの既定のインスタンスで作成されていない。  
アーカイブデータベースは既定のインスタンス上にのみ作成できます。
- ・ SQL サービスの起動に失敗し、アーカイブデータベースの作成ができない。  
MSSQLSERVER または SQLSERVERAGENT のサービスアカウントのパスワードが間違っているか、あるいは指定のユーザーにサービスとしてログオンする権限がありません。  
サービスアカウントのパスワードを確認するか、サービスアカウントの権限を与えてください。
- ・ すでにアーカイブデータベースが作成されている。  
1 つの SQL サーバーインスタンスに複数のアーカイブデータベースを作成することはできません。以前にインストールしたアーカイブデータベースが不要であれば、手順 7-4 を実行してアーカイブデータベースを削除し、再度手順 7-3 を実行してアーカイブデータベースの作成を行ってください。
- ・ SQL サーバーの規定のインスタンスの管理者権限がない

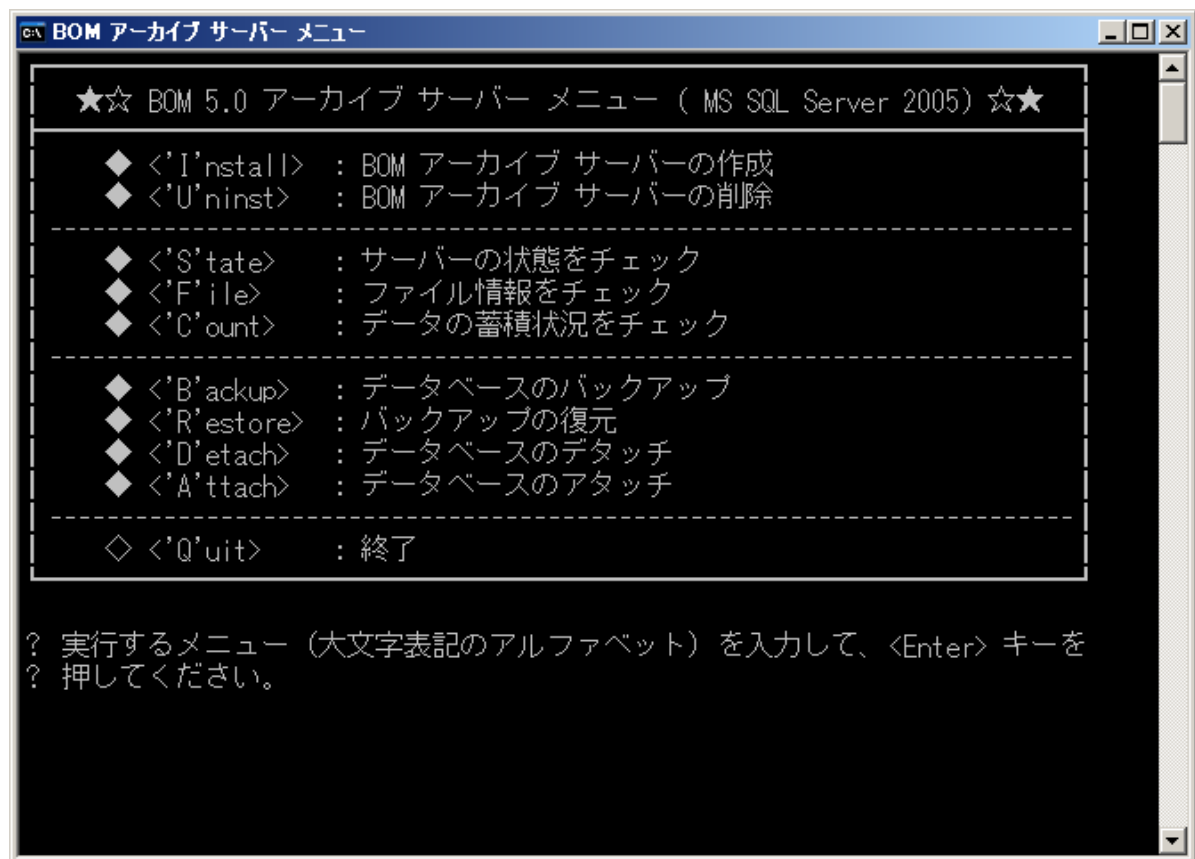
アーカイブデータベースは SQL サーバーの規定のインスタンスの管理者権限がある場合のみ作成できます。

#### 7-4. アーカイブサーバーの削除

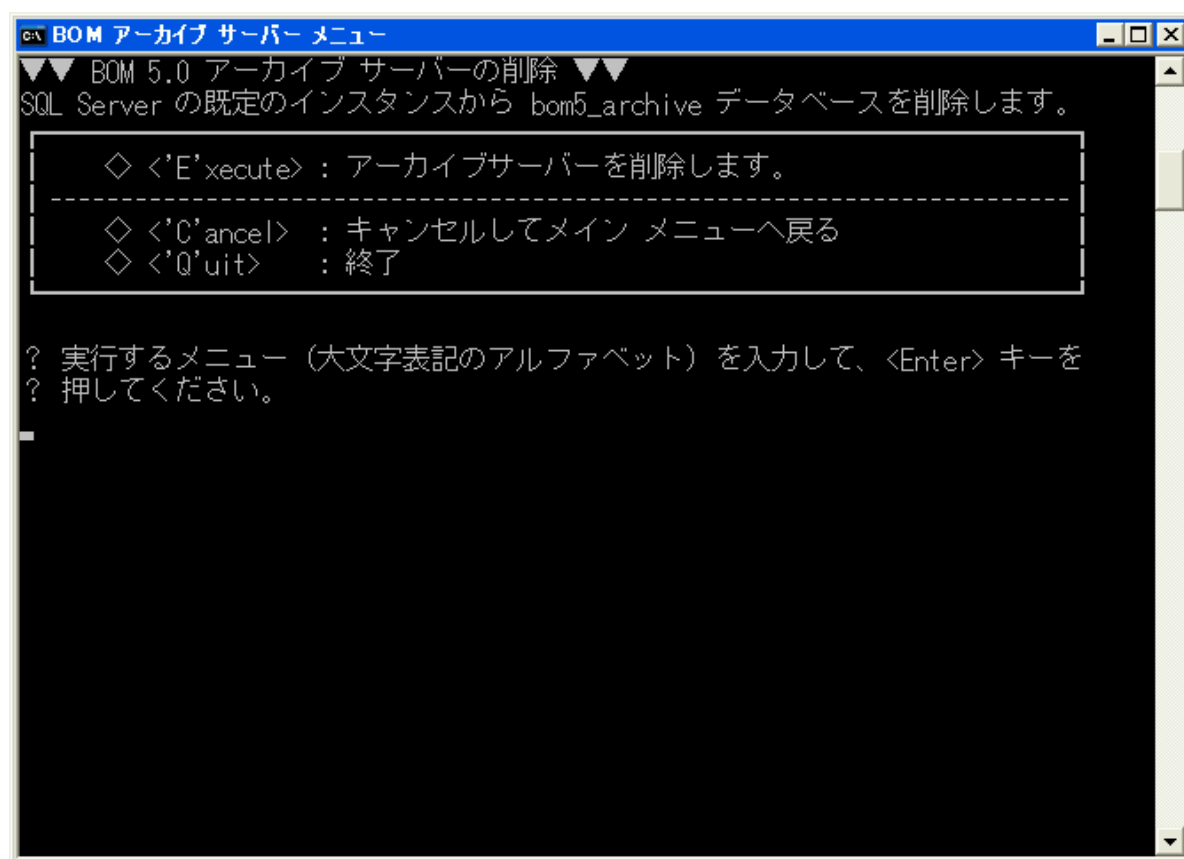
スタートメニューの[すべてのプログラム]-[BOM]-[BOM for Windows 5.0]-[BOM 5.0 アーカイブサーバー管理メニュー]をクリックし、クリックします。



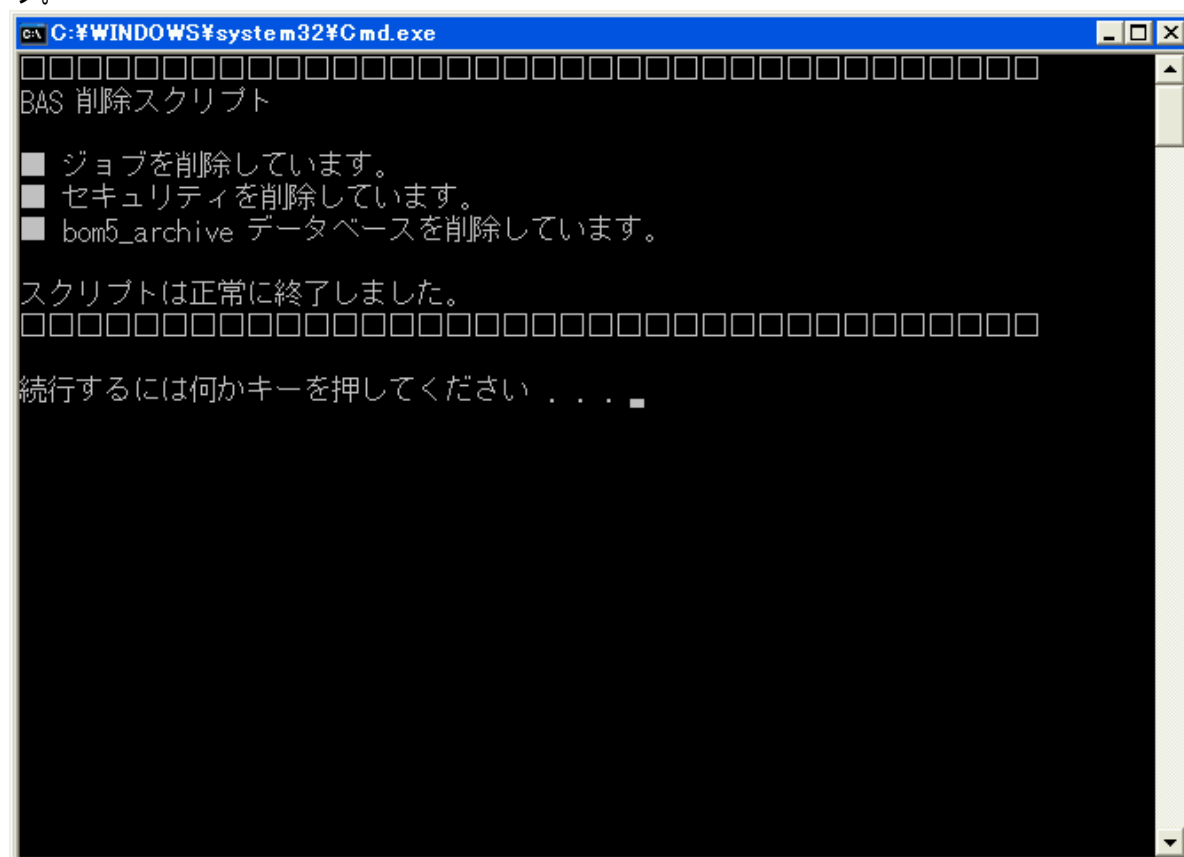
BOM 5.0 アーカイブサーバーを削除するには U と入力し、<Enter>キーを押します。



E と入力して<Enter>キーを押します。



削除が正常に完了すると、下の画面が表示されます。任意のキーを押して画面を閉じます。



以上でアーカイブデータベースの削除は完了です。